

2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
 - (8) 避難場所の認知経路
 - (9) 大規模災害時の避難生活場所
 - (10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

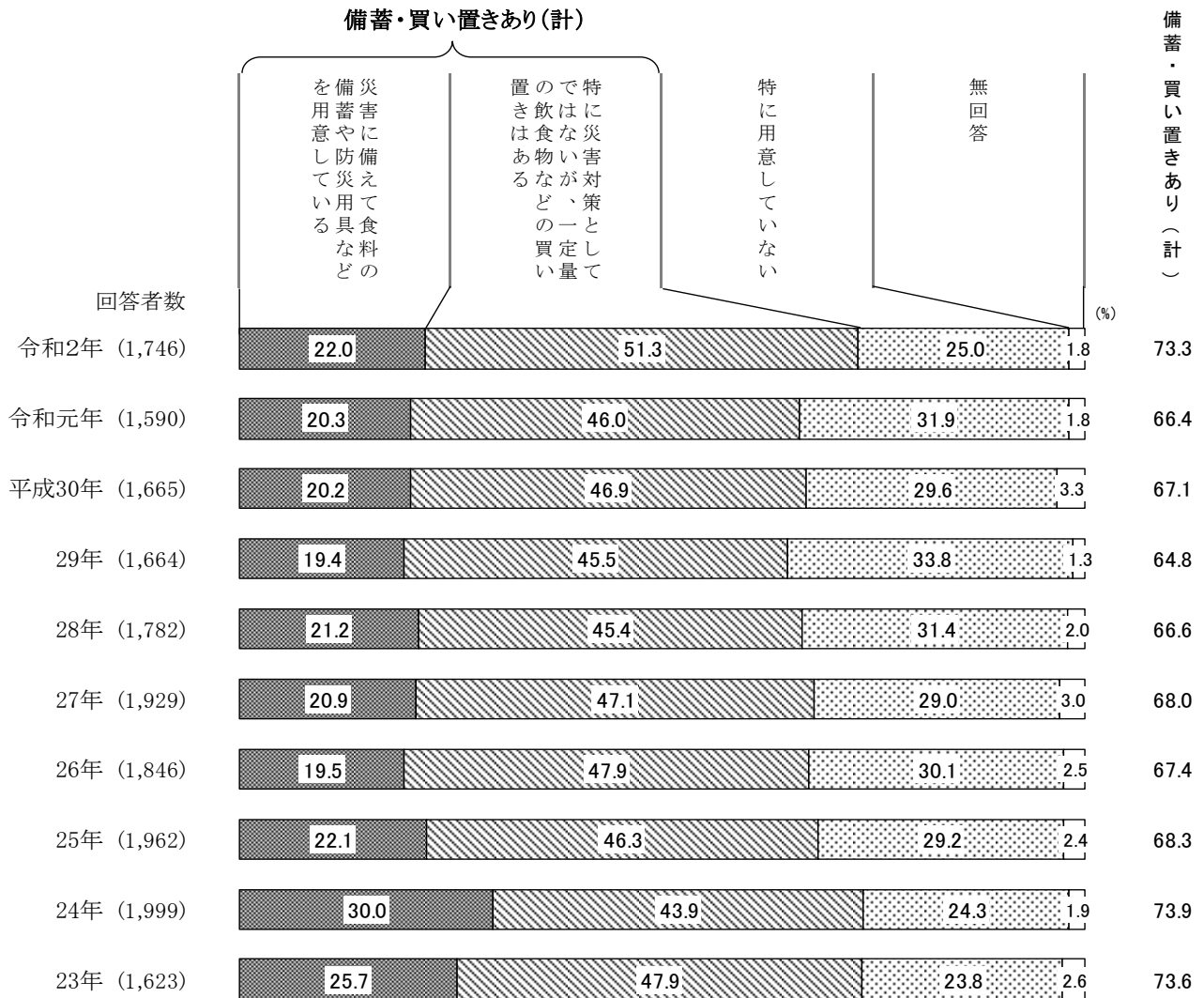
2 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 備蓄・買い置きを用意している人は、4人に3人近くの割合

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が22.0%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が51.3%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は73.3%となっている。一方、「特に用意していない」は25.0%となっている。

経年でみると、前回より1.7ポイント増の「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」と5.3ポイント増の「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」を合わせた【備蓄・買い置きあり】は今回73.3%と、令和元年調査（66.4%）に比べて6.9ポイント増加している。

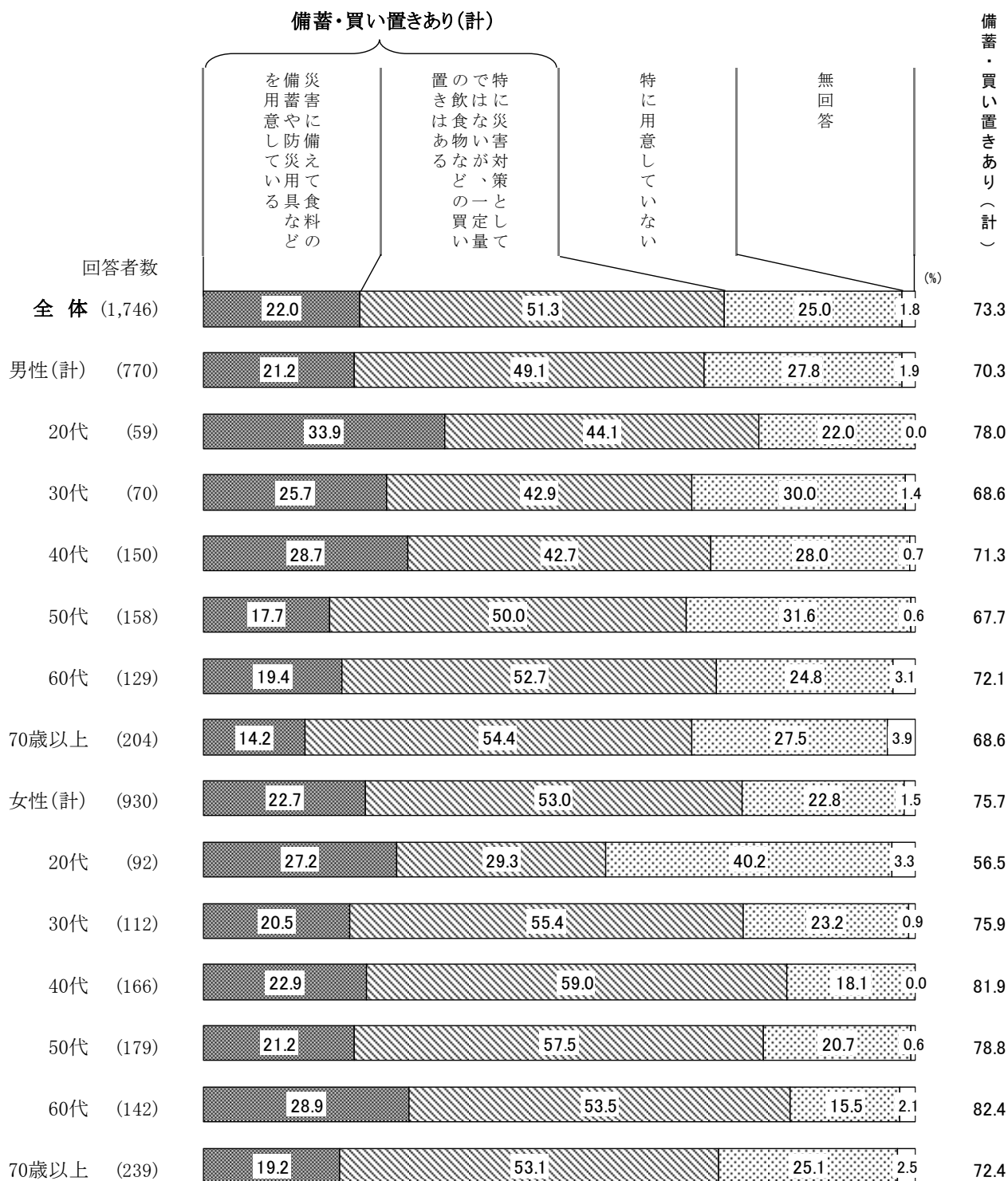
第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

性別でみると、女性では【備蓄・買い置きあり】が75.7%と、男性（70.3%）より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では20代で【備蓄・買い置きあり】が78.0%と最も高くなっている。

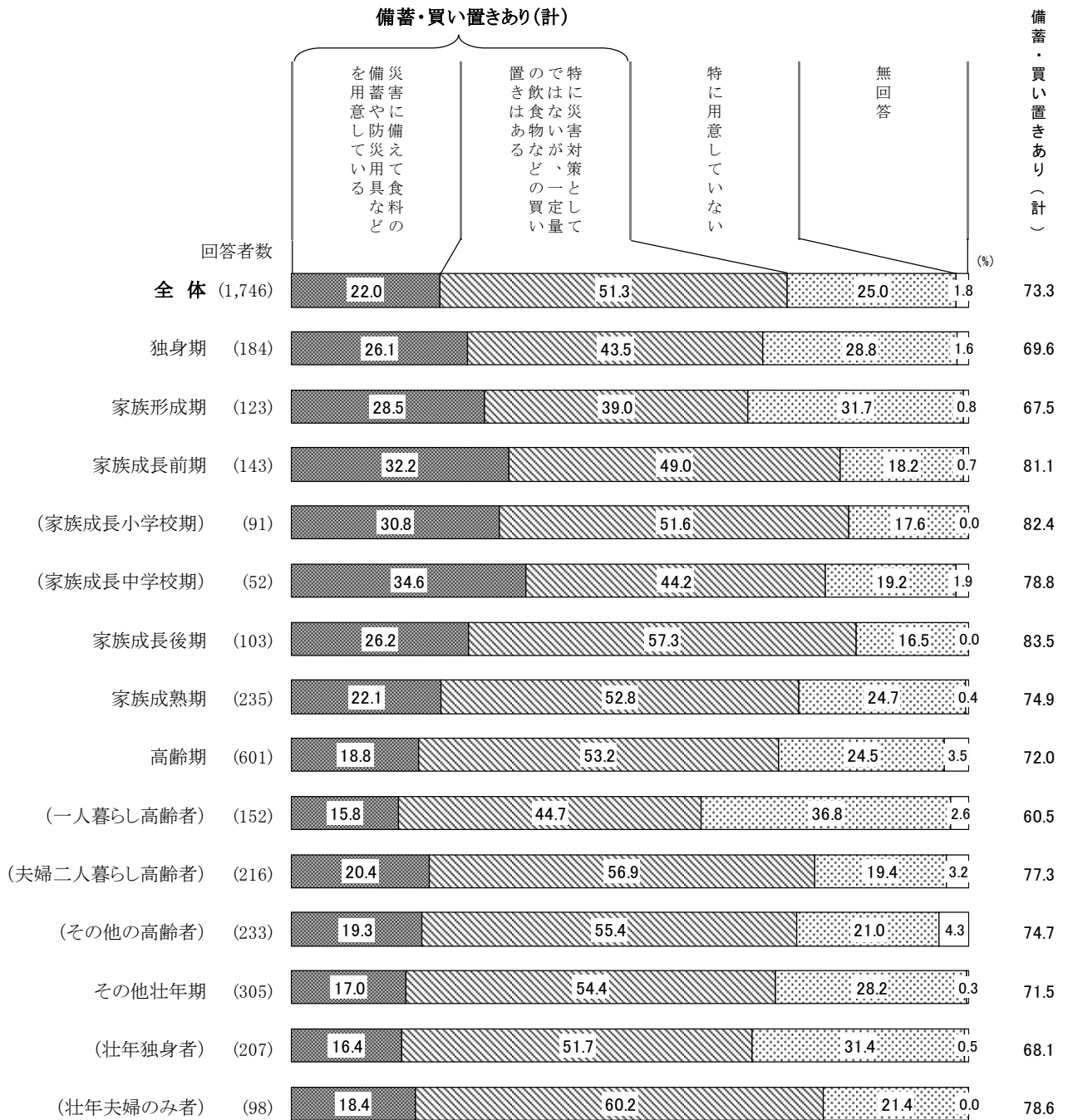
女性では、60代で【備蓄・買い置きあり】が82.4%と高くなっている。一方、20代で「特に用意していない」が40.2%と他の年代に比べて高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は家族成長後期で83.5%と最も高く、家族成長前期（81.1%）がこれに続くが、家族形成期では67.5%で最も低くなっている。

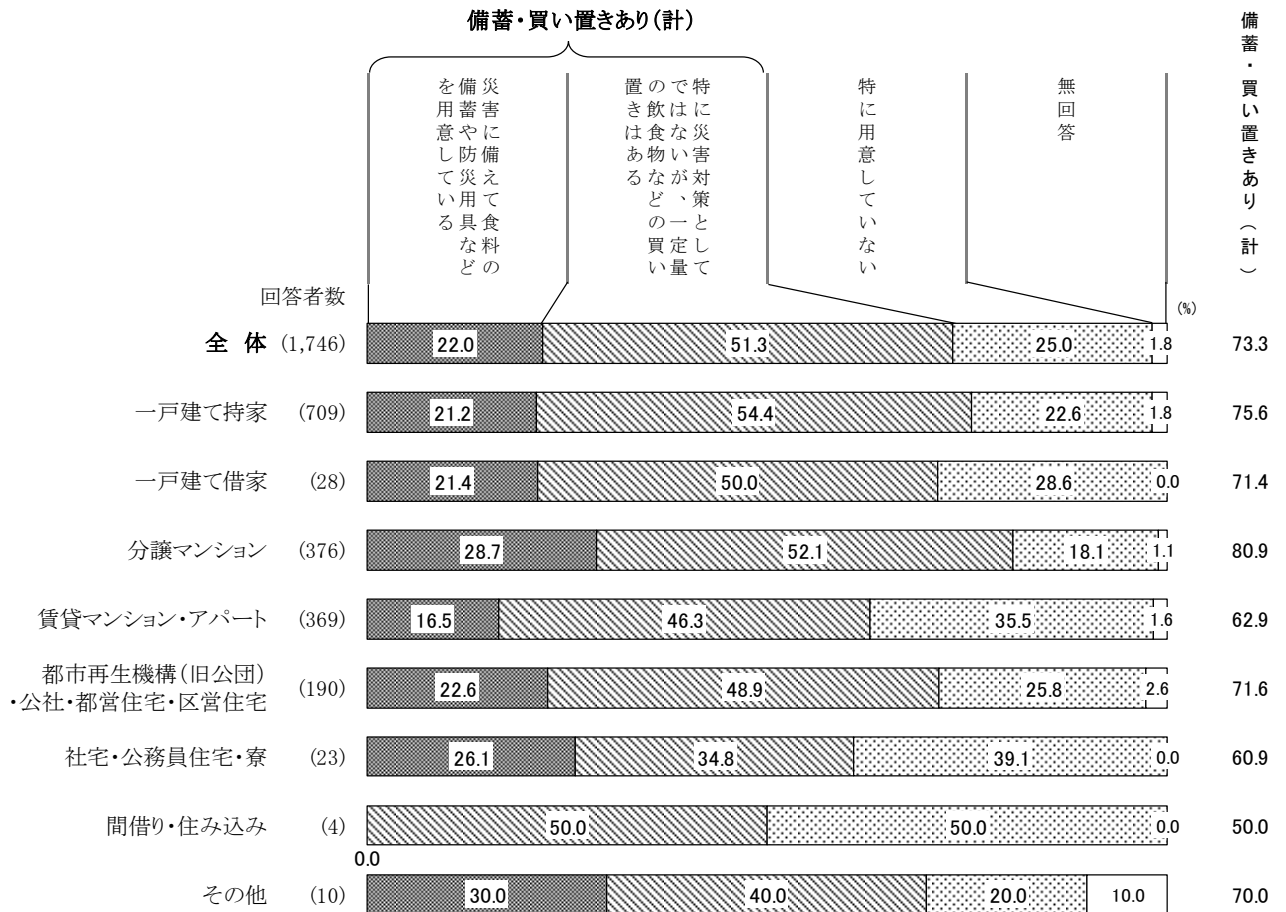
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、分譲マンションでは【備蓄・買い置きあり】が80.9%と、他の住居形態に比べて高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは「特に用意していない」が35.5%と高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※ 「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 「水」が8割台半ば、「あかり」と「食料」が8割を超えて並んで上位

問5で「1 災害に備えて～」、または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に
 問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください
 (〇はあてはまるものすべて)。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

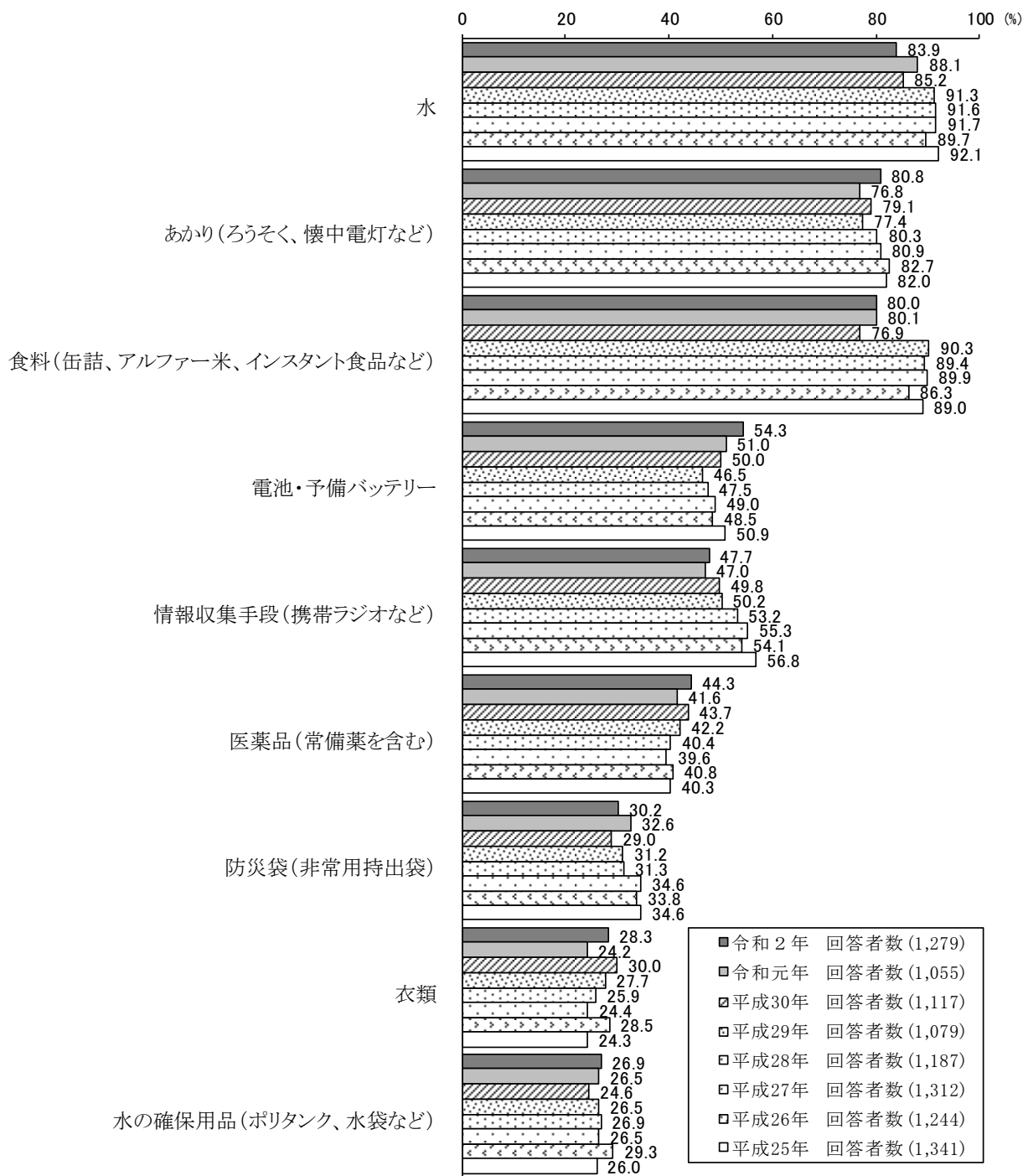
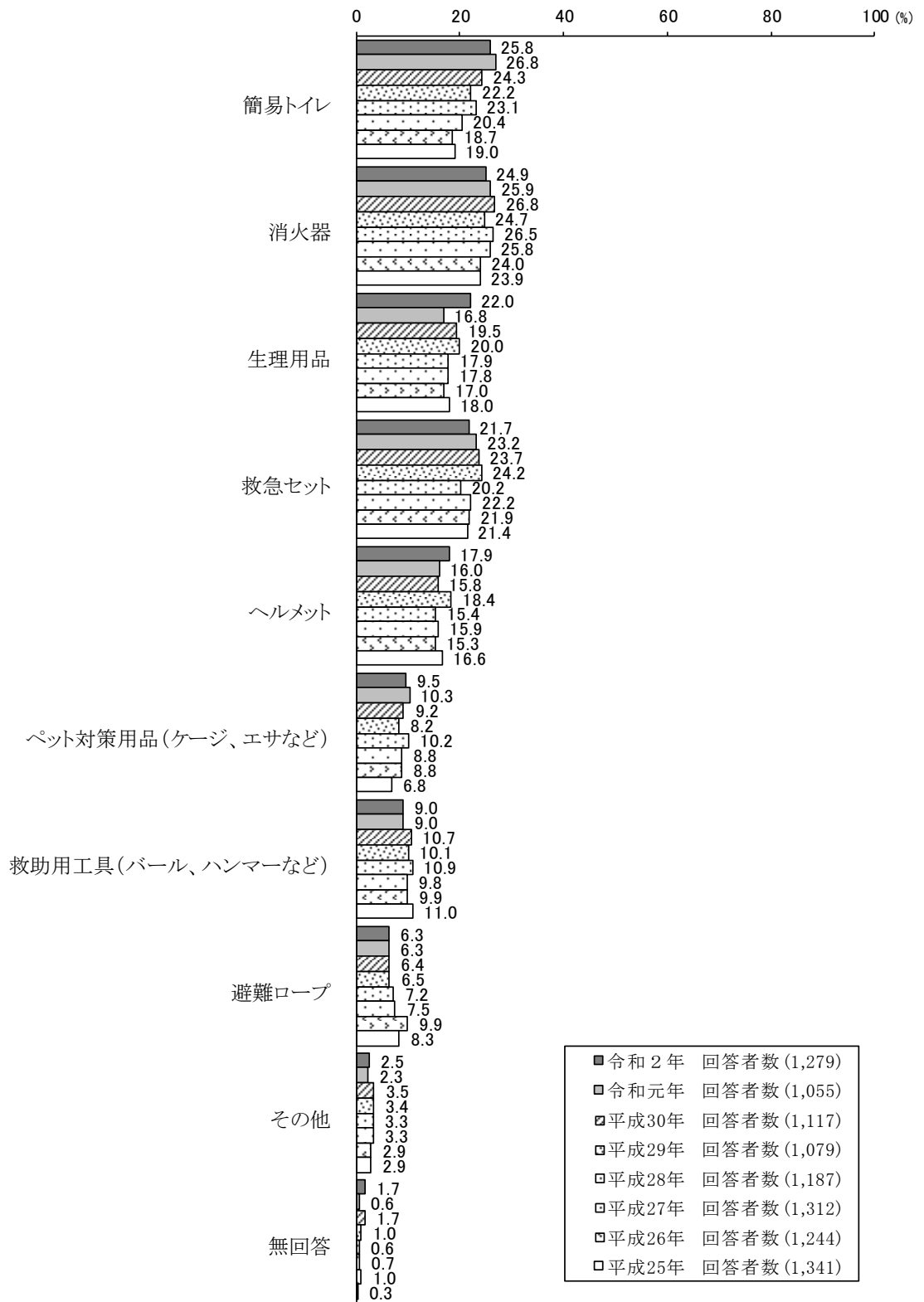


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が83.9%で最も高く、以下「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（80.8%）、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（80.0%）の順となっている。

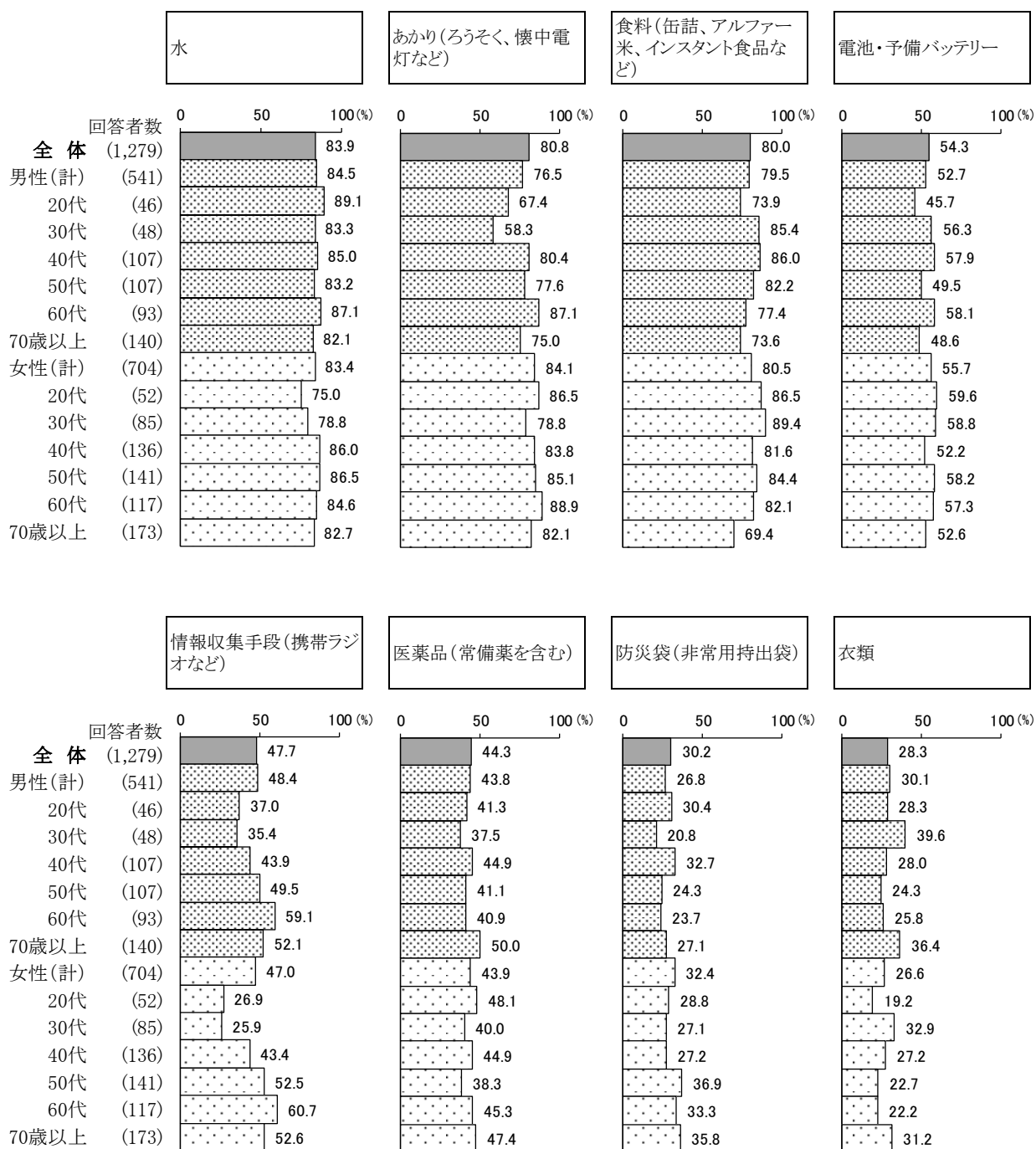
経年でみると、平成25年から前回令和元年までの調査と同様に、「水」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」が上位3項目に挙げられるものの、今回の調査では「水」（83.9%）は前回に比べて4.2ポイント減少、「あかり」（80.8%）は逆に前回より4.0ポイント増加して、前回（80.1%）とほとんど変わらない「食料」（80.0%）を僅かに上回って2位に順位を戻している。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

上位項目を中心に、性別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」では男女で大きな違いはみられないが「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」では女性（84.1%）の方が男性（76.5%）より7.6ポイント高くなっている。

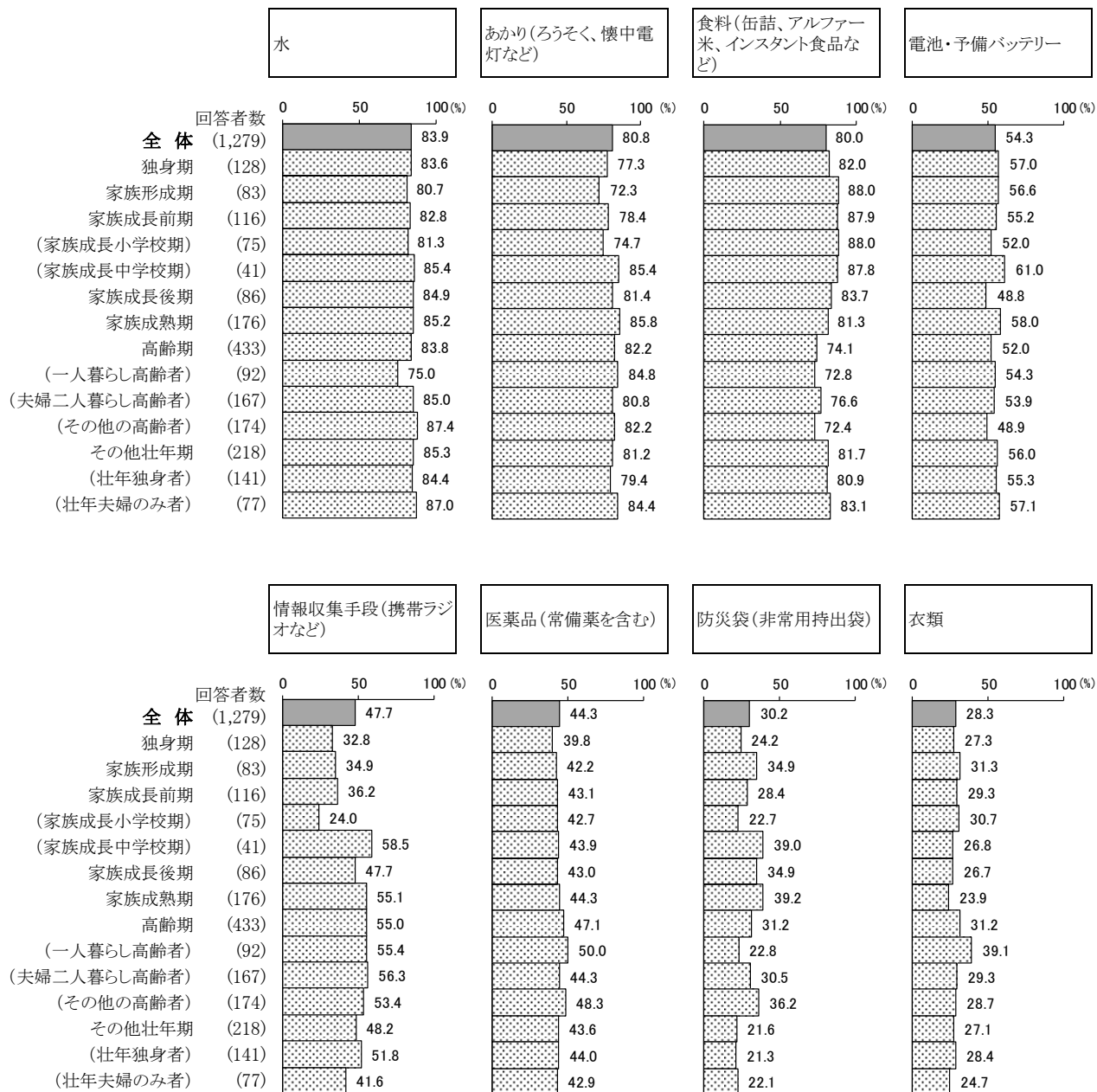
性・年代別でみると、男性では、「あかり」は30代や20代で低めな一方、「食料」は30代や40代で高めとなっており、「情報収集手段」は60代で6割弱と最も高くなっている。一方、女性では、「食料」で70歳以上が約7割と低く、「情報収集手段」は20代と30代で低くなっている。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別でみると、上位項目に大きな違いがみられないが、「情報収集手段」は家族成熟期と高齢期で5割台半ばと高いのに対し、独身期、家族形成期、家族成長前期の3層では3割強から3割台半ばにとどまり、ライフステージ別の格差がみられる項目となっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

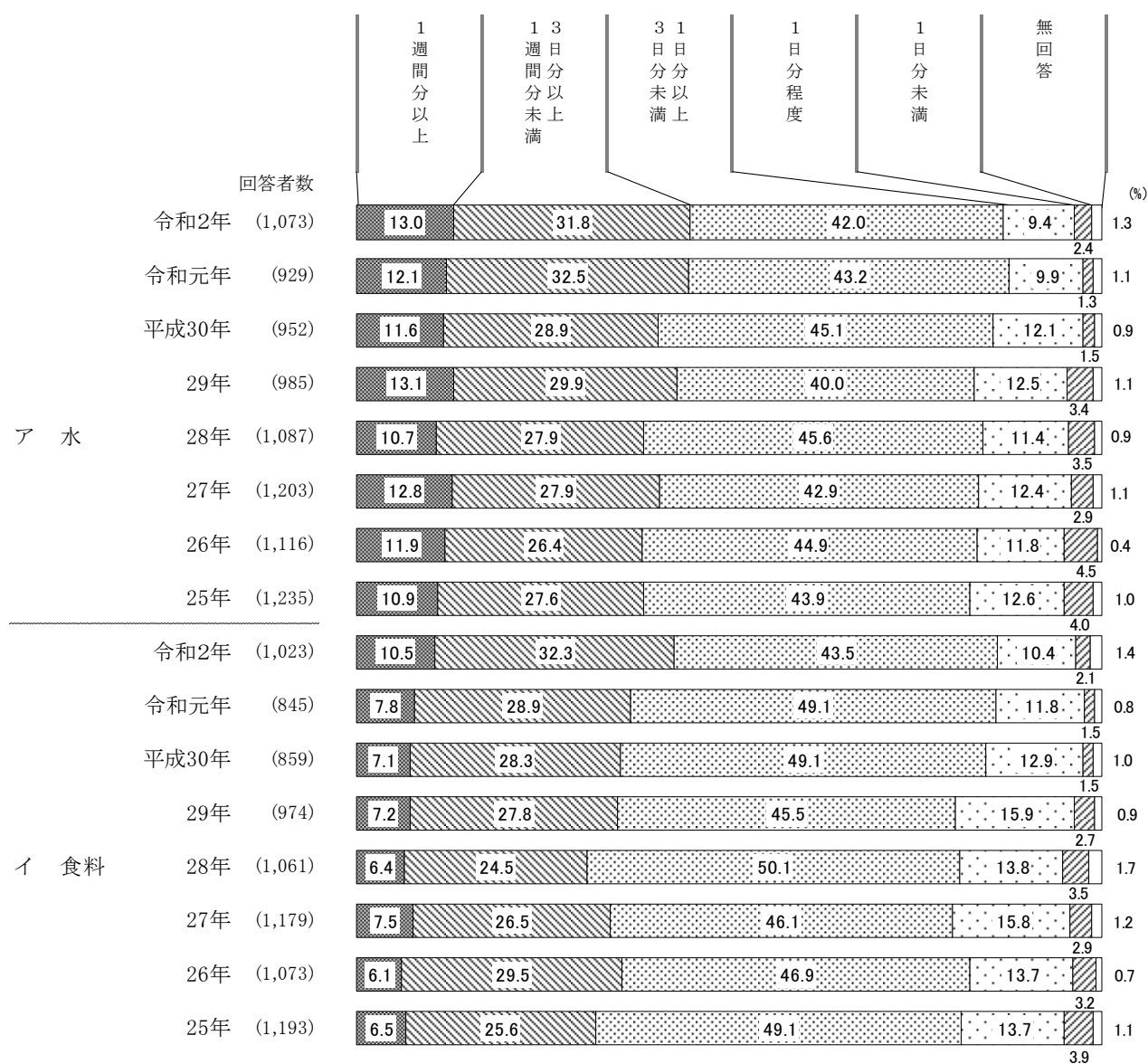
■ 備蓄ありの人の中で、3日分以上の備蓄ありは、〈水〉で4割台半ば、〈食料〉で4割強

問5-1で「1 水」、または「2 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。
「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（○はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量



「水」か「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」を備蓄している人に、それぞれの備蓄量を聞いたところ、〈水〉については「1日分以上3日分未満」が42.0%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（31.8%）となっている。

一方、〈食料〉については「1日分以上3日分未満」が43.5%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（32.3%）となっている。

経年でみると、「1日分以上3日分未満」は、前回の令和元年に比べて、〈食料〉では5.6ポイント減少、〈水〉では1.2ポイント減少している。一方、「1週間分以上」と「3日分以上1週間分未満」を合わせた【3日分以上の備蓄を持つ人】は前回より、〈食料〉では6.1ポイント増加し、〈水〉でも0.2ポイントながら増加している。

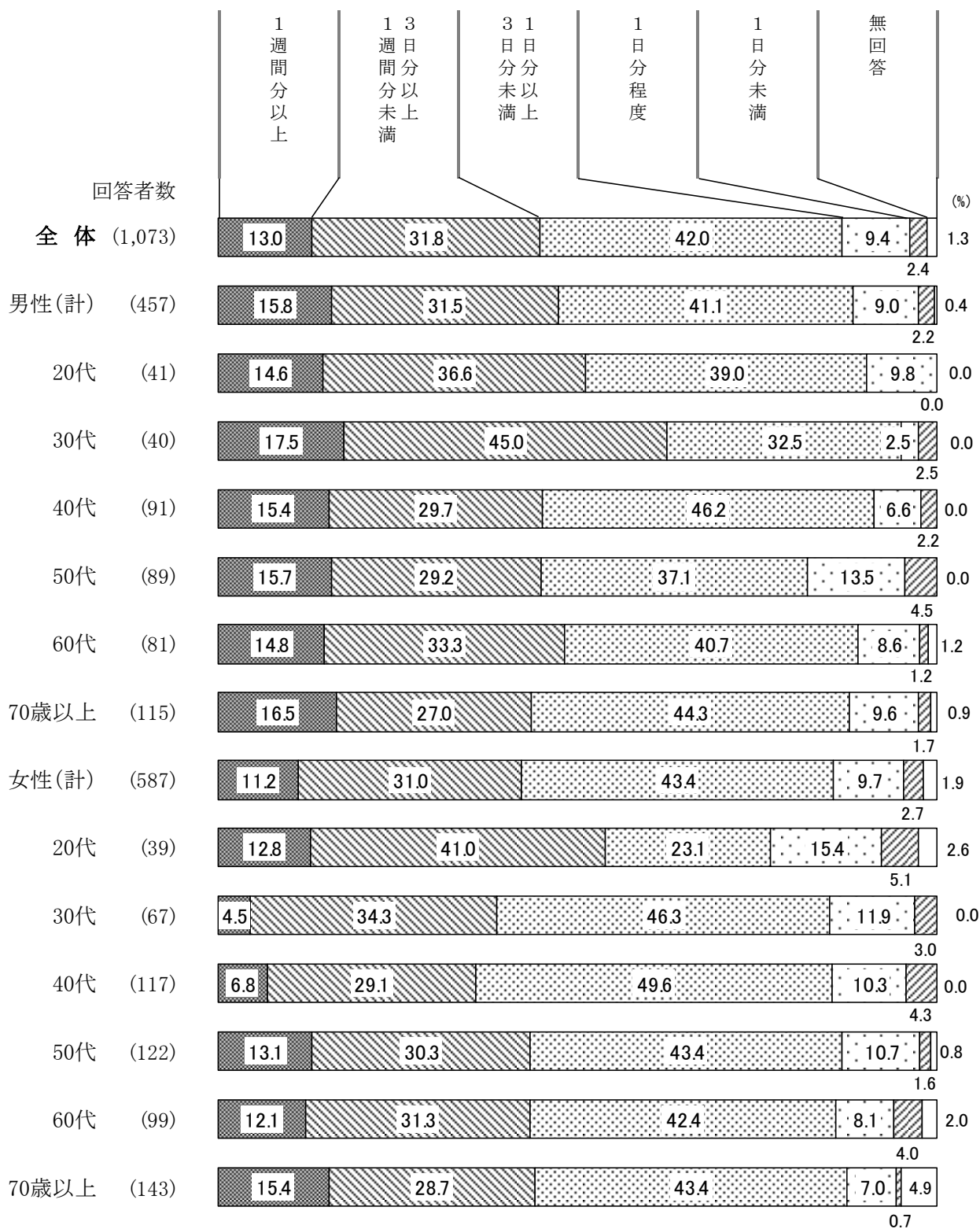
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

水の備蓄量を性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、男性では、40代と70歳以上で「1日分以上3日分未満」が4割台半ばと多く、3日分以上の備蓄を持つ人の割合を上回っているのを除くと、他の年代層では3日分以上の備蓄を持つ人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回っており、中でも30代で6割強と高い。

女性では、50代以上の3年代層では3日分以上の備蓄を持つ人の割合と「1日分以上3日分未満」の割合がそれぞれ4割強ずつで拮抗しているが、20代では3日分以上の備蓄を持つ人の割合の方が高く、30代と40代では「1日分以上3日分未満」の割合の方が高くなっている。

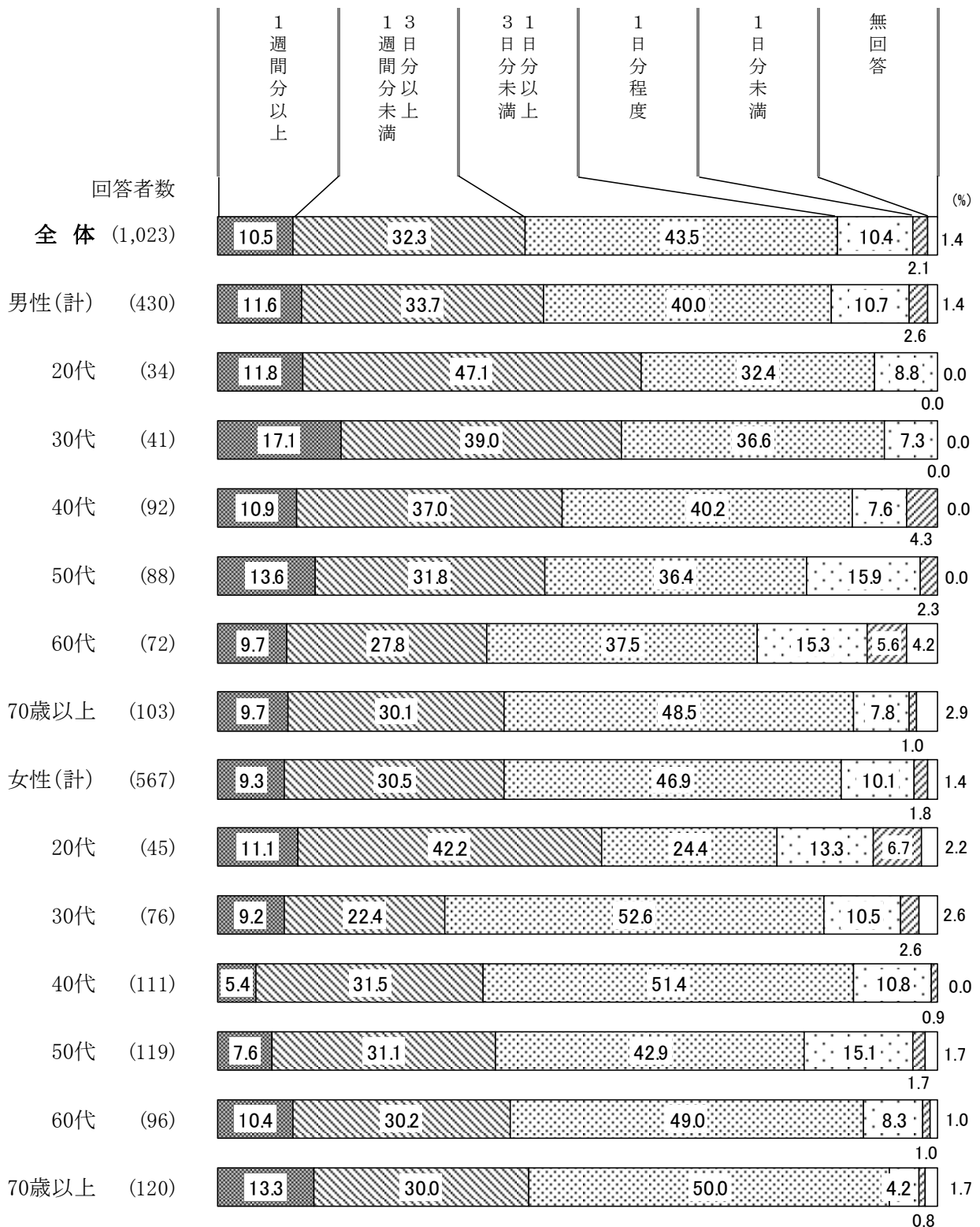
図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



食料の備蓄量を性別で見ると、大きな男女差はみられないが、3日分以上の備蓄を持つ人の割合は、男性（45.3%）の方が女性（39.8%）より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、3日分以上の備蓄を持つ人の割合は、男女ともに20代で最も高く、男性では年代が高くなるにつれてその割合が下がる傾向がみられるのに対し、女性では20代で高いのを除くと、年代が高くなるにつれてその割合も少しずつ高まる傾向がみられる。

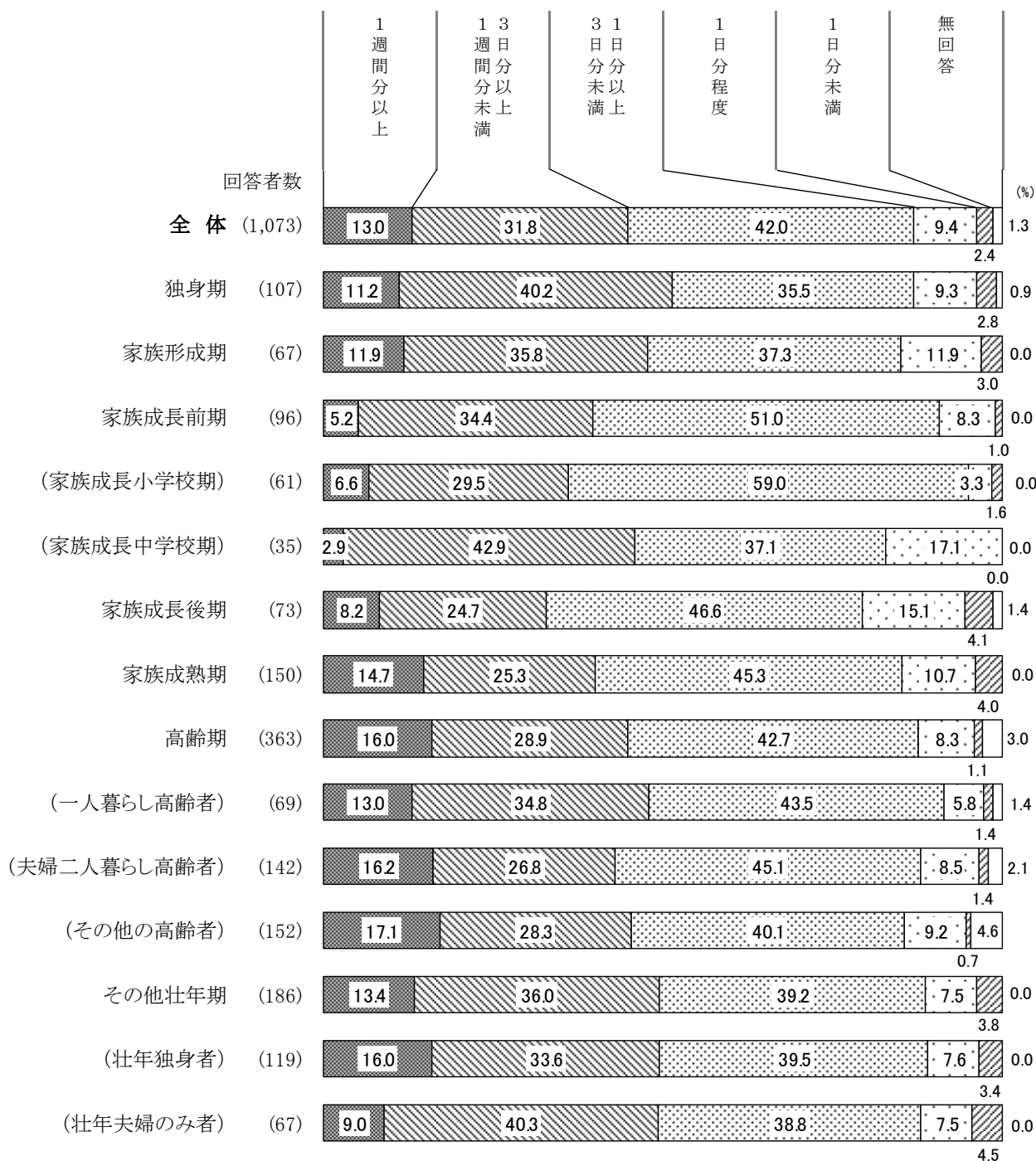
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

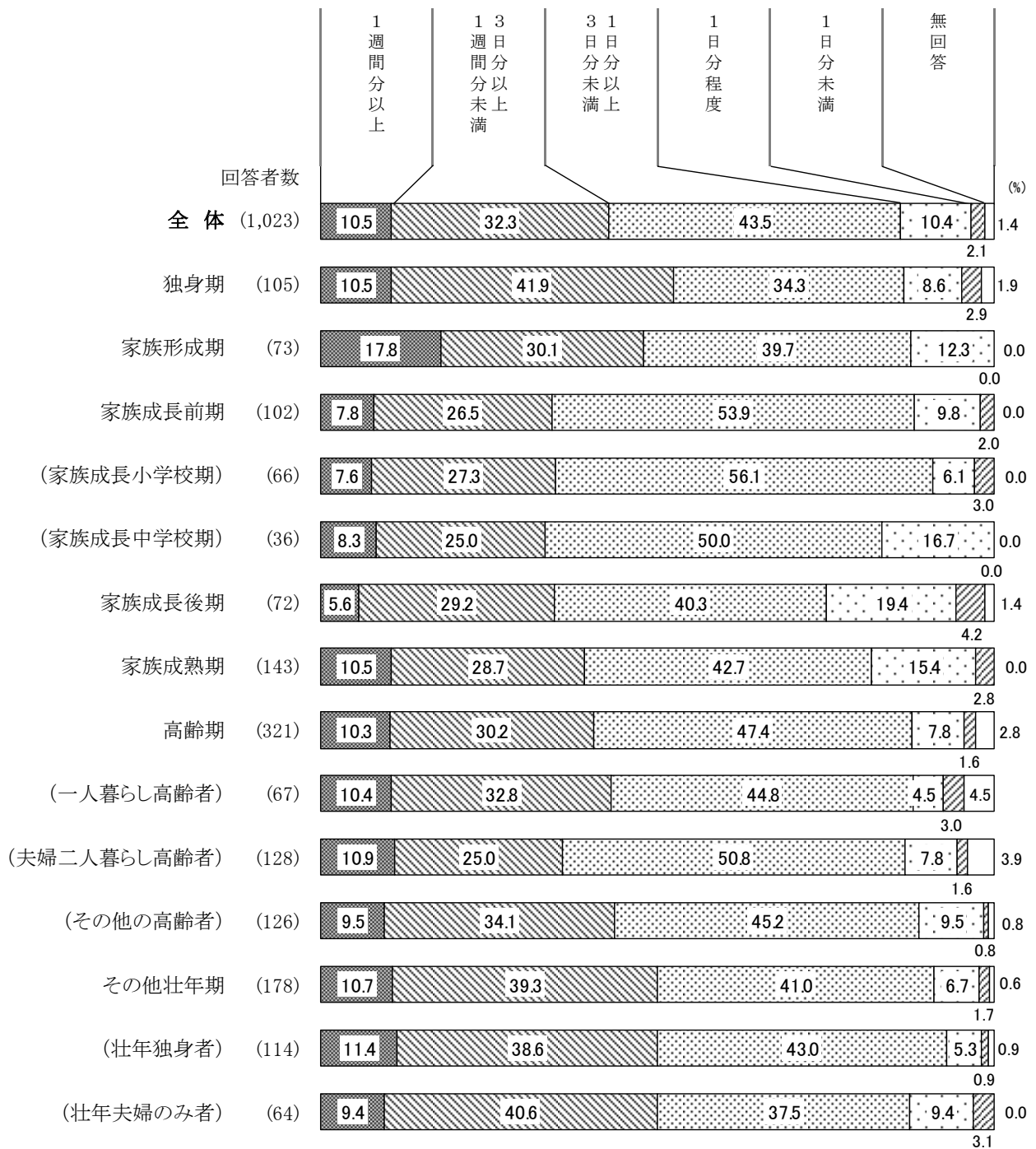
水の備蓄量をライフステージ別で見ると、3日分以上の備蓄がある人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回っているのは、独身期、家族形成期、高齢期、その他壮年期の4層となっている。

図2-3-3-① ライフステージ別/備蓄量/水



食料の備蓄量をライフステージ別にみると、3日分以上の備蓄がある人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回っているのは独身期と家族形成期、その他壮年期の3層のみで、「1日分以上3日分未満」の割合は家族成長前期（53.9%）で最も高く、高齢期（47.4%）も高めとなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

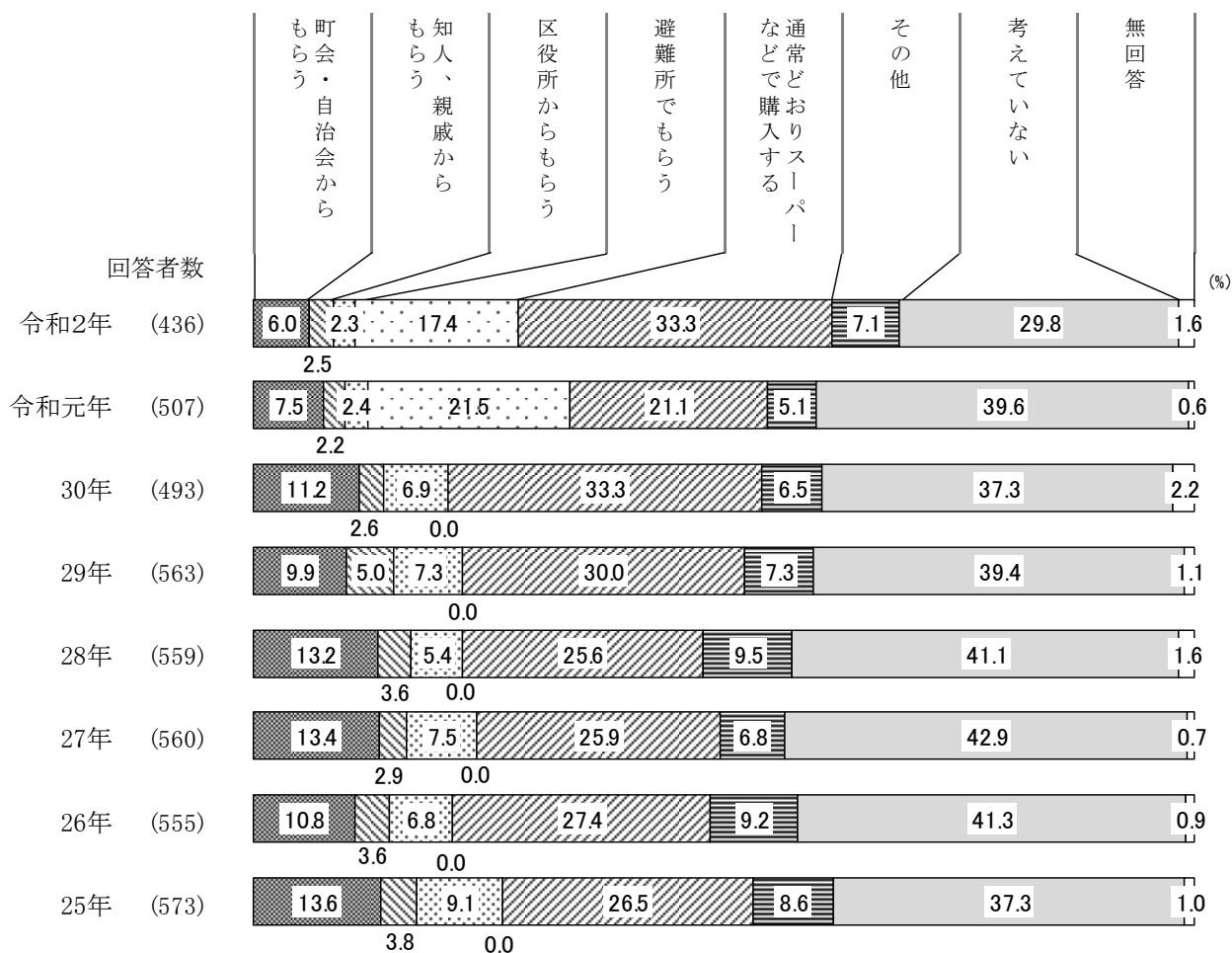
■ 「スーパー等で購入」が3割強で、3割の「考えていない」を上回って最多

問6は、問5で「3 特に用意していない」とお答えの方におうかがいします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか

(○は1つだけ)。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



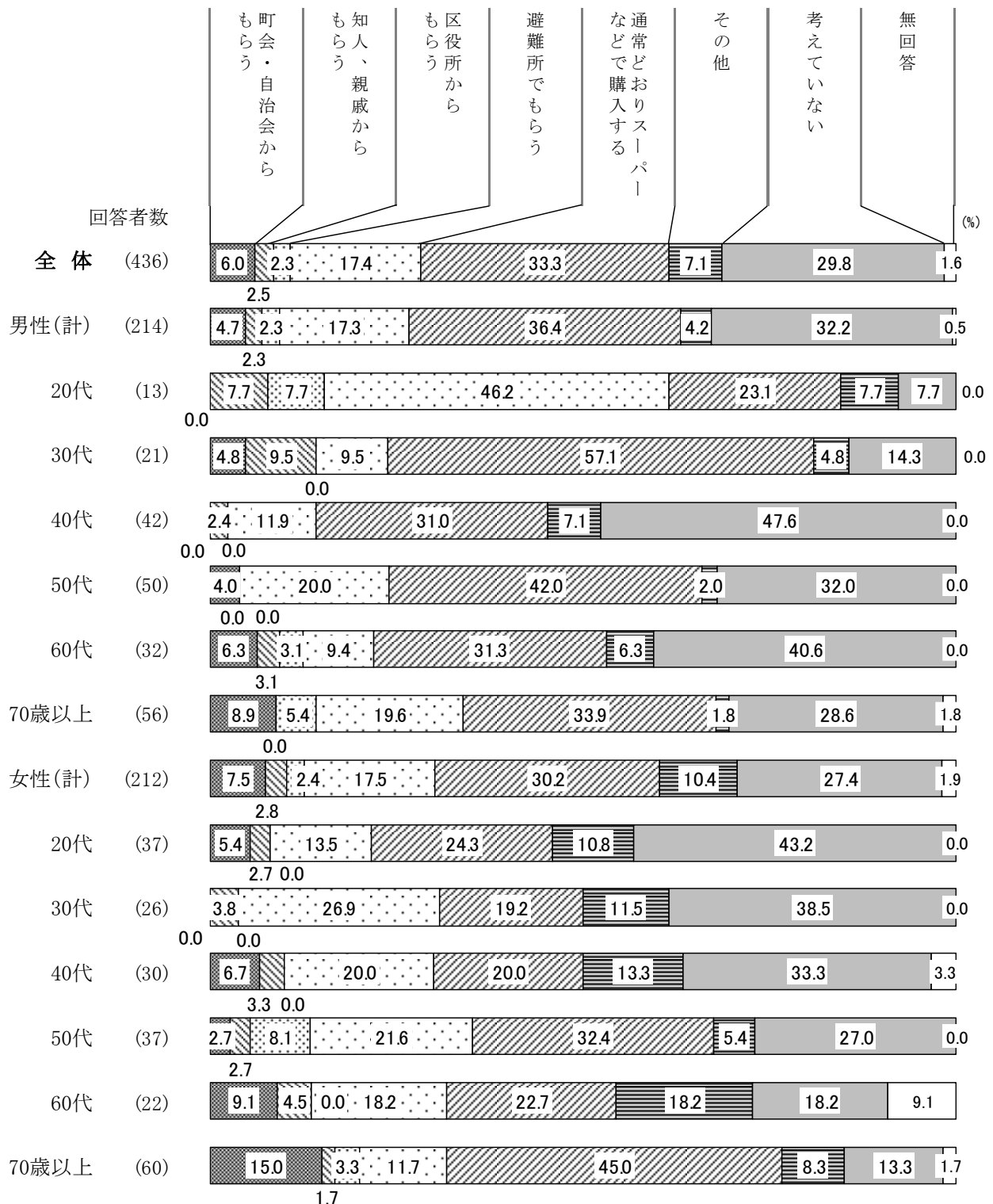
【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」(33.3%)が3割強で、約3割の「考えていない」(29.8%)を上回って最多となっており、前回令和元年から新設された「避難所でもらう」(17.4%)が2割弱で続いている。

経年でみると、前回に「避難所でもらう」の新設で大きく比率を下げた「通常どおりスーパーなどで購入する」が前回より12.2ポイント増加して、前回より9.8ポイント減の「考えていない」を上回って最多となり、「避難所でもらう」も前回に比べると4.1ポイント減少するなど、今回の令和2年度の回答分布は、「考えていない」が最多だった前回や平成25年から30年の回答分布とは異なる傾向となっている。

性別でみると、男女で大きな違いはみられないものの、「通常どおりスーパーなどで購入する」と「考えていない」の2項目はそれぞれ男性の方が女性より5～6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「通常どおりスーパーなどで購入する」は男性の30代（57.1%）と女性の70歳以上（45.0%）で高く、「考えていない」は男性の40代（47.6%）と女性の20代（43.2%）で高くなっている。

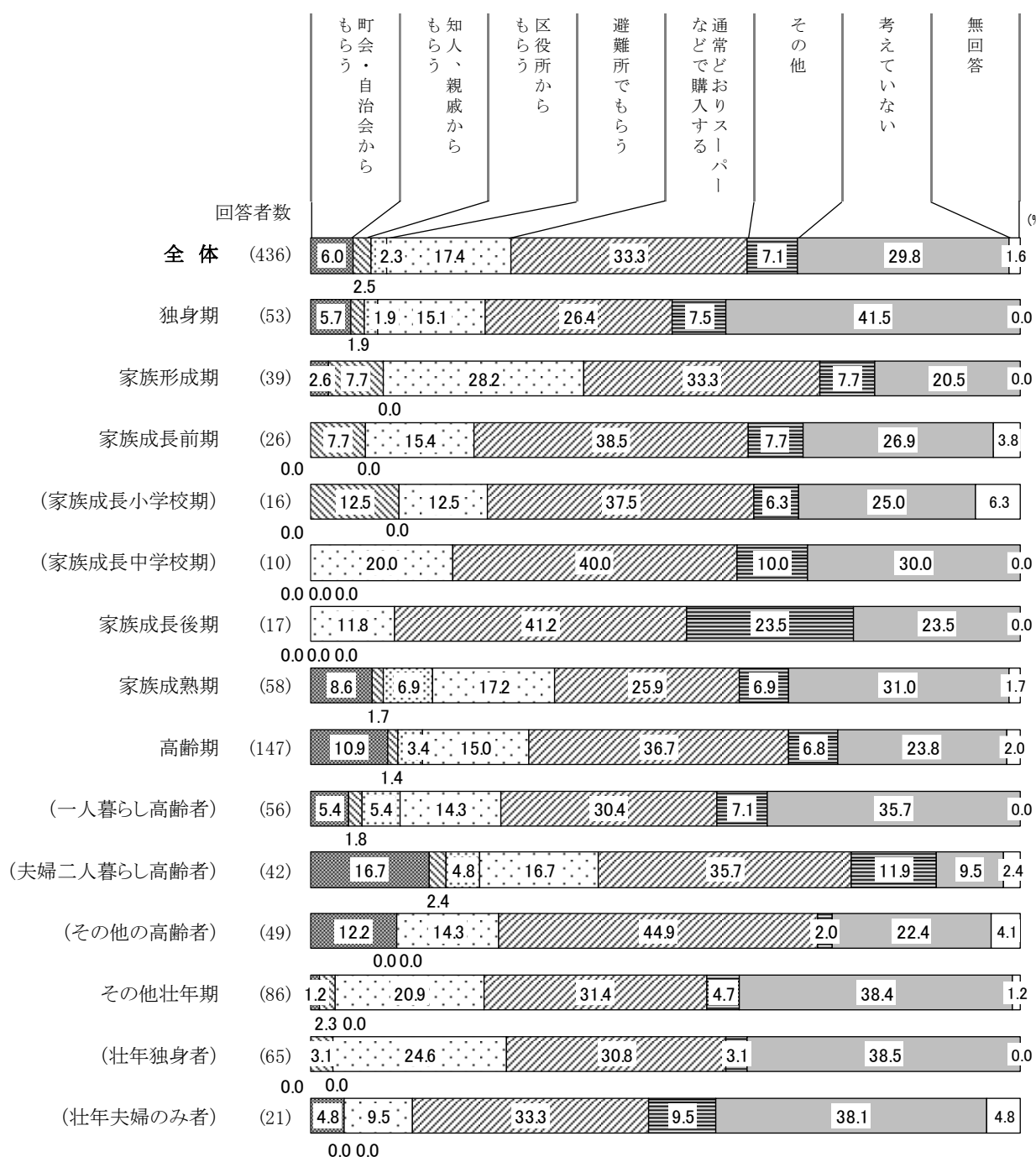
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

ライフステージ別で見ると、「通常通りスーパーなどで購入する」は家族成長前期と家族成長後期で4割前後と高く、「考えていない」は独身期で、「避難所でもらう」は家族形成期でそれぞれ高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

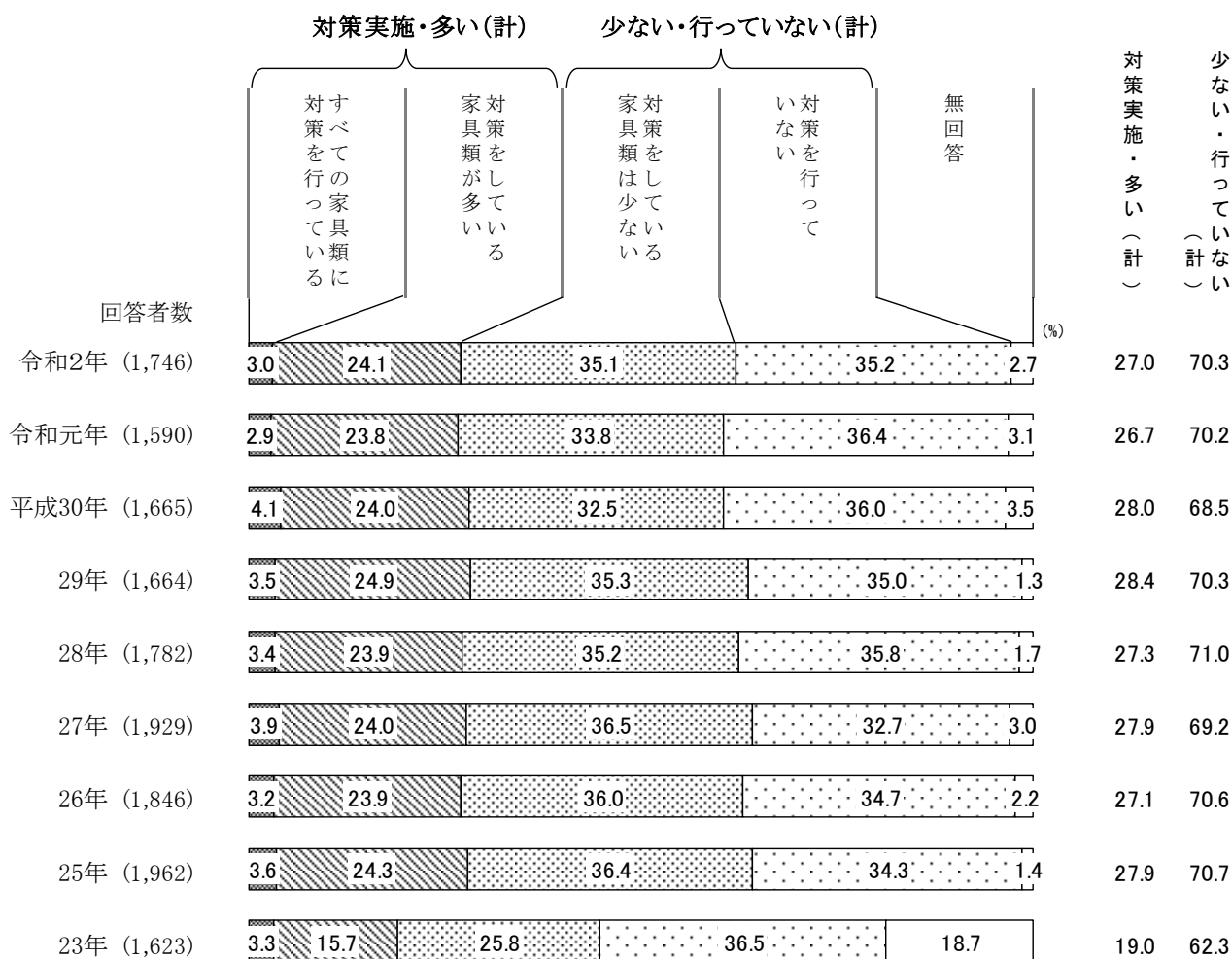


(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策は少ない・行っていない人が、これまで同様7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。
 ※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較/家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.0%で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.1%を合わせた【対策実施・多い】は27.0%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は35.1%、「対策を行っていない」は35.2%で、両者を合わせた【少ない・行っていない】は70.3%となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は平成25年以降各年2割台後半で横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】も平成25年以降各年7割前後でほぼ横ばいの状態が続いている。

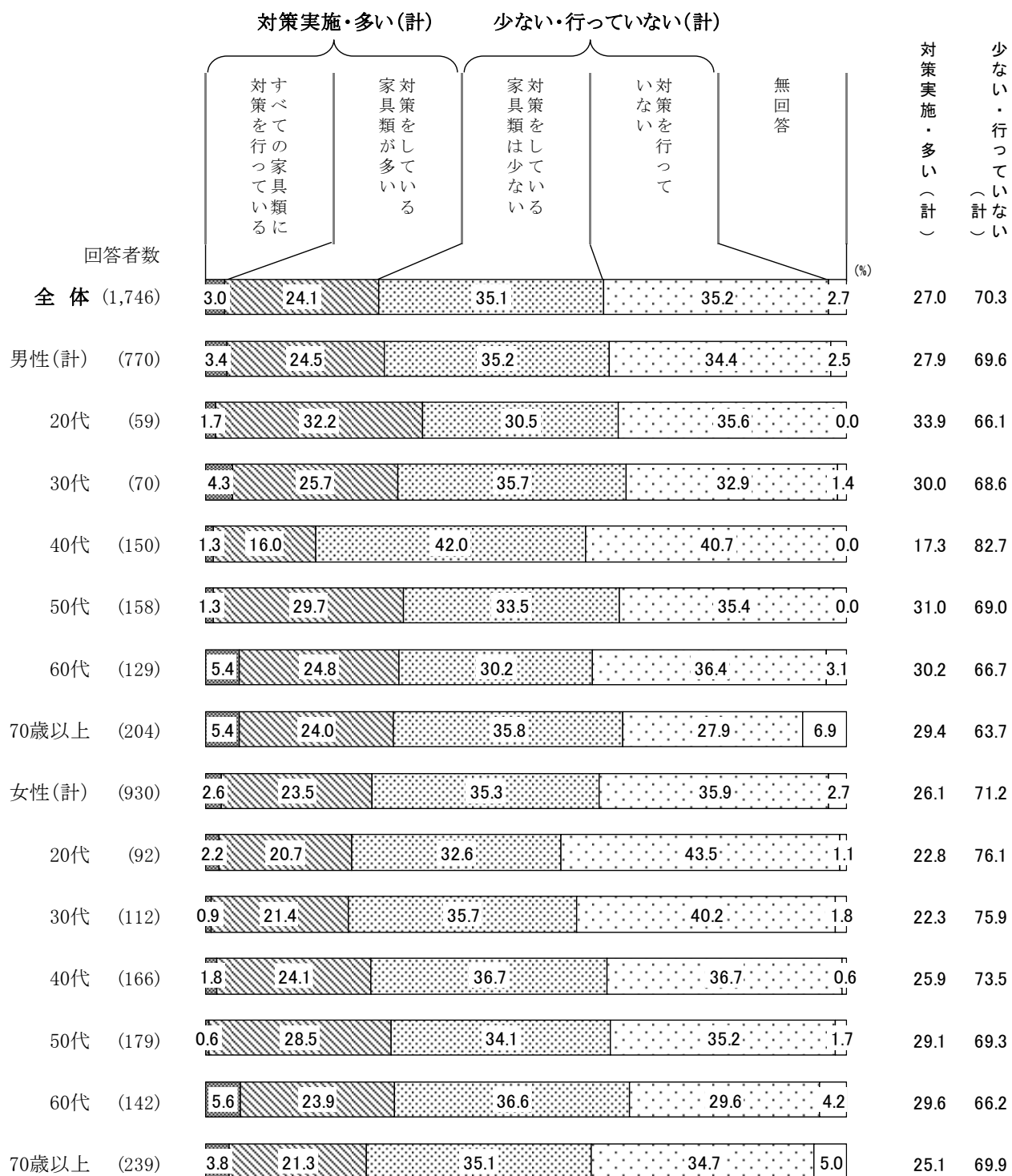
第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代で【対策実施・多い】が3割台半ばとやや高くなっている一方、40代では【少ない・行っていない】が8割強と高くなっている。

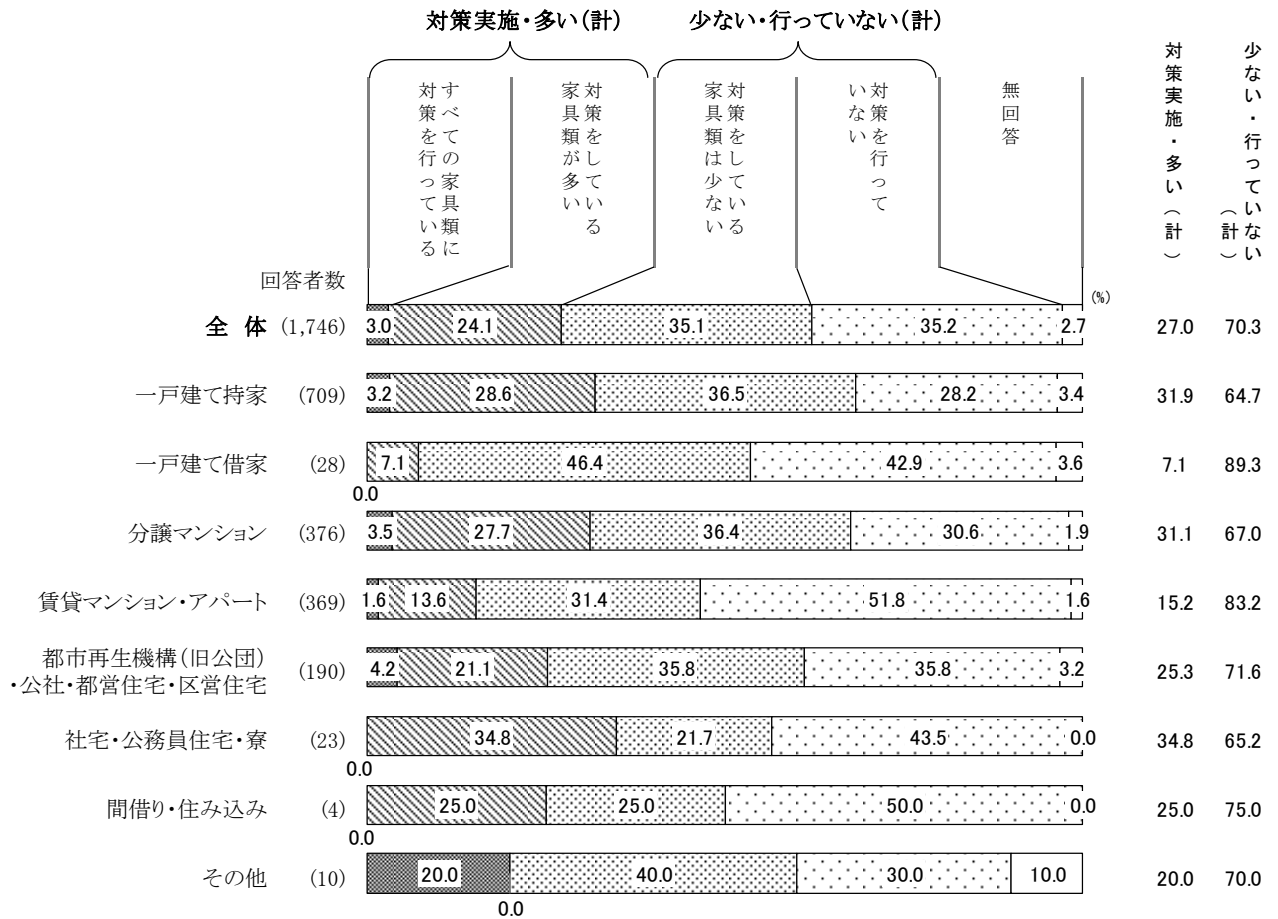
女性では、50代と60代で【対策実施・多い】がともに3割近くとやや高くなっている一方、20代と30代では【少ない・行っていない】が7割台半ばとやや高くなっている。

図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



住居形態別で見ると、一戸建て持家と分譲マンションでは【対策実施・多い】がそれぞれ31.9%、31.1%と3割を超えてやや高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは【少ない・行っていない】が83.2%と高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※ 「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 対策をしていない理由

■ 「面倒である」と「危険な家具類なく不要」がともに3割弱で上位

問7で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に
 問7-1 どのような理由からですか (〇はあてはまるものすべて)。

図2-6-1-① 経年比較/対策をしていない理由

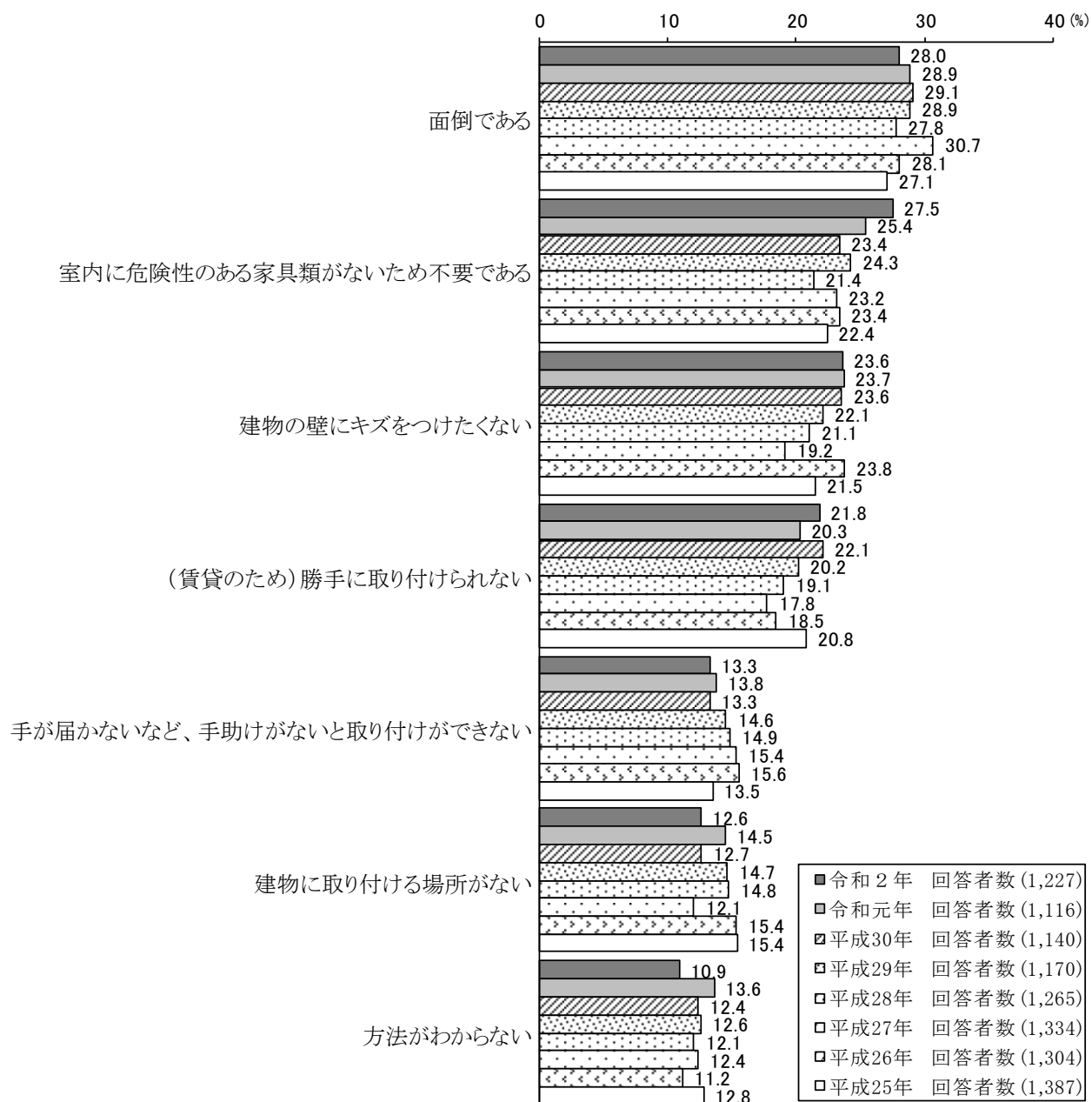
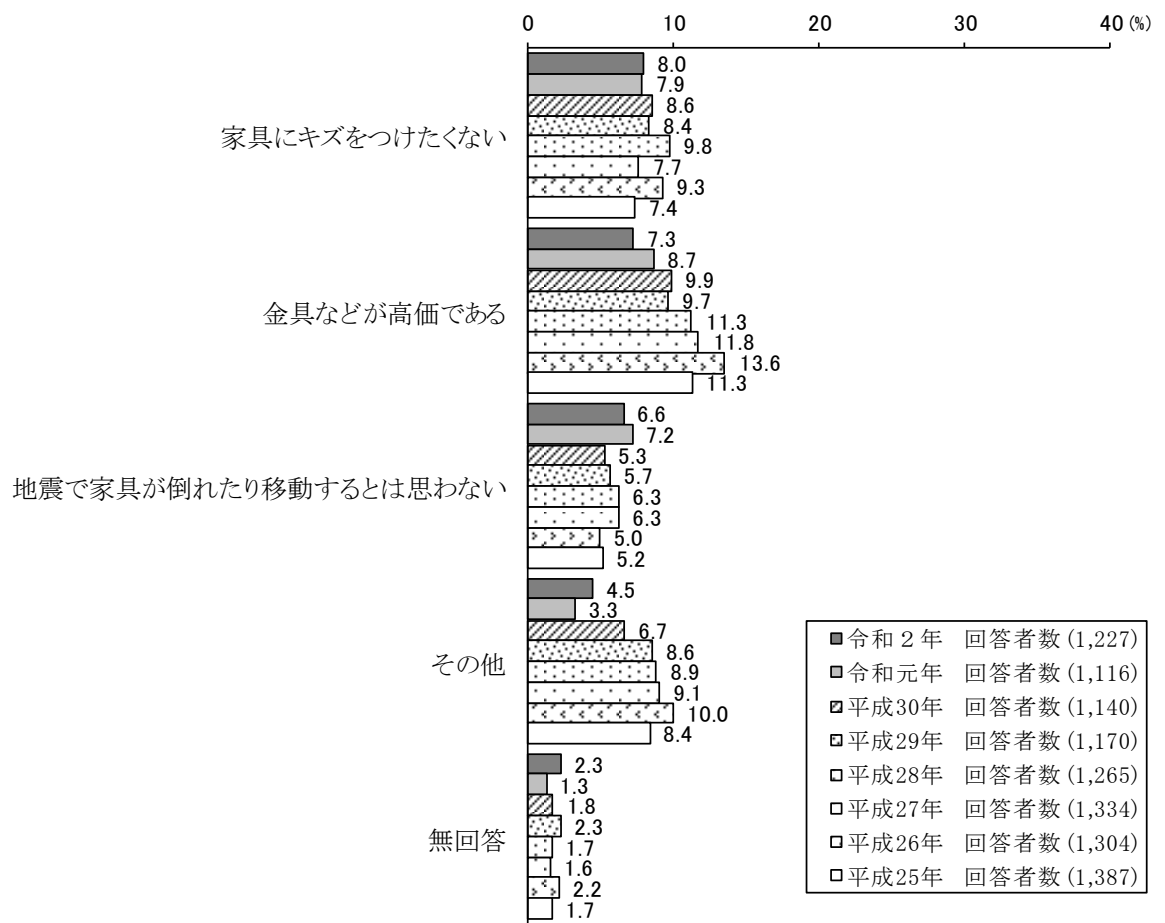


図2-6-1-② 経年比較/対策をしていない理由



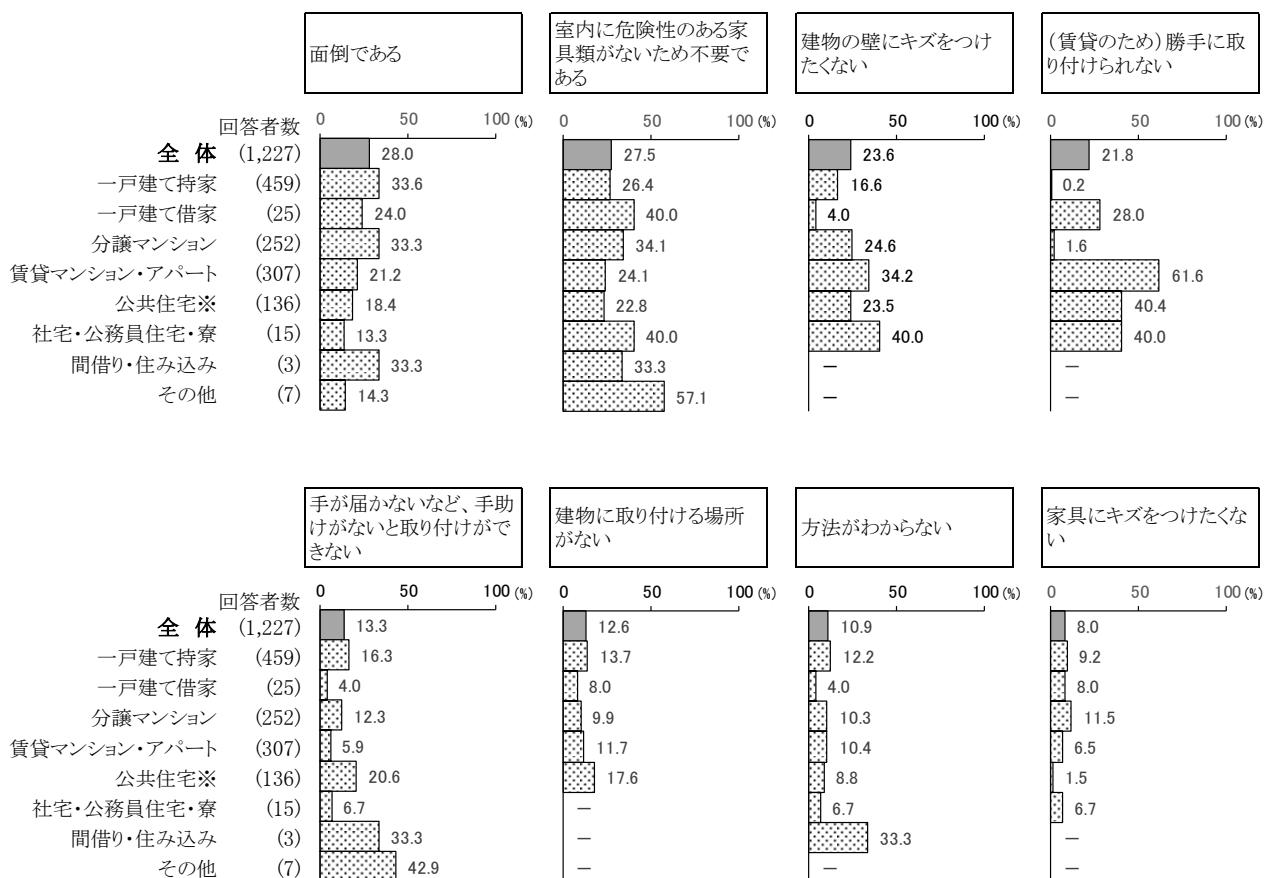
家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が28.0%で最も高いが、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」が27.5%の僅差で続き、以下「建物の壁にキズをつけたくない」(23.6%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(21.8%)の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位に変動はみられず、数値にも大きな変動はみられないが、次点の「室内に危険性のある家具類がないため不要である」は2年続けて微増している。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、「面倒である」は一戸建て持家で（33.6%）と分譲マンション（33.3%）でやや高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは「建物の壁にキズをつけたくない」（34.2%）と「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（61.6%）が高くなっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

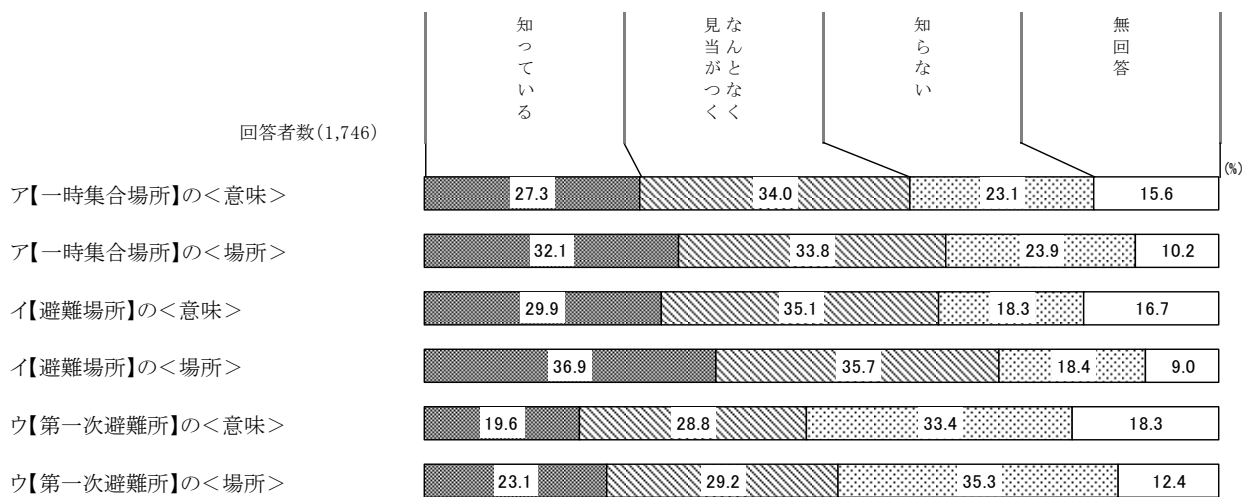
※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

(7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

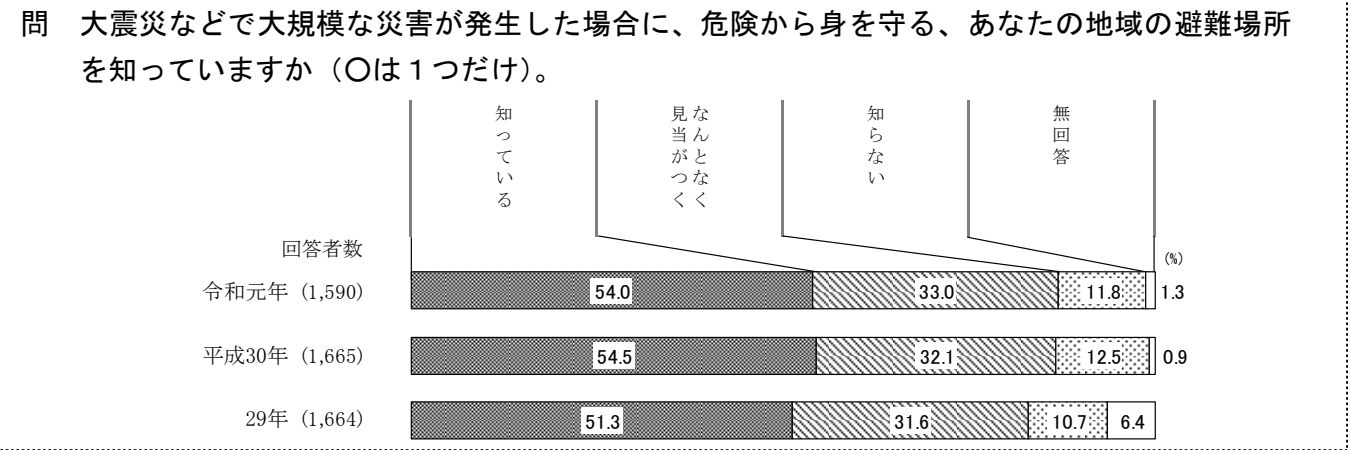
■「知っている」では、自分の地域の「避難場所」の場所が3割台半ばを超えて最多

問8 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図2-7-1 地域の3種の避難場所とその意味の認知



参考／地域の避難場所の認知



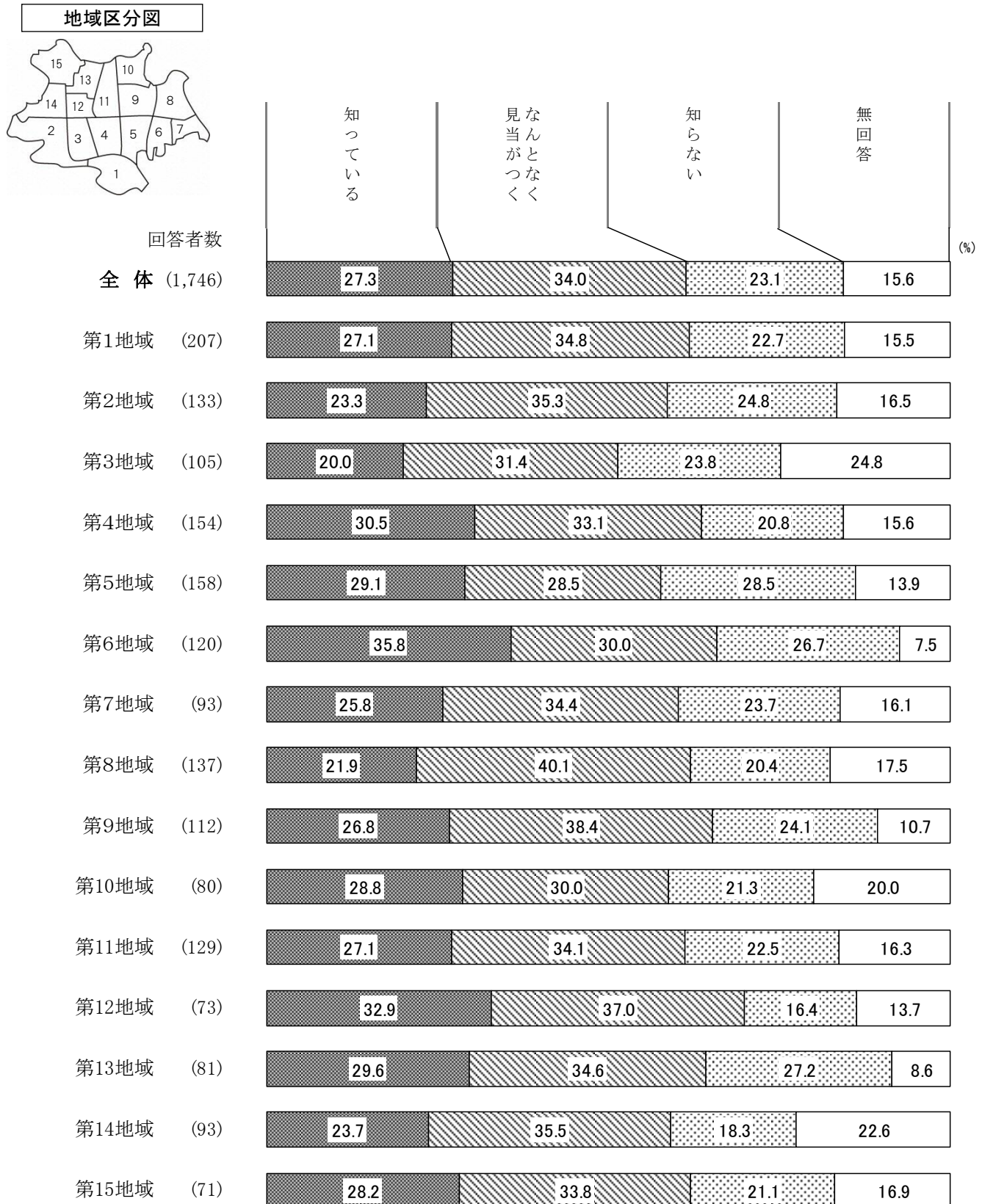
地域の3種の避難場所の意味と場所の認知状況をみると、「知っている」の割合は、【イ「避難場所」の場所】（36.9%）が3割台半ばを超えて最も高く、以下【ア「一時集合場所」の場所】（32.1%）が3割強、【イ「避難場所」の意味】（29.9%）が約3割、【ア「一時集合場所」の意味】（27.3%）が3割弱が続いているが、【ウ「第1次避難所」の場所】（23.1%）と【ウ「第一次避難所」の意味】（19.6%）はともに約2割～2割強と相対的に低めとなっている。

今回からの質問形態の変更で単純な経年比較はできないが、今回の【イ「避難場所」の場所】の結果を前回の令和元年調査と比べると、「知っている」は17.1ポイント減少し、「なんとなく見当がつく」（2.7ポイント増）と「知らない」（6.6ポイント増）、「無回答」（7.7ポイント増）がそれぞれ増えている。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

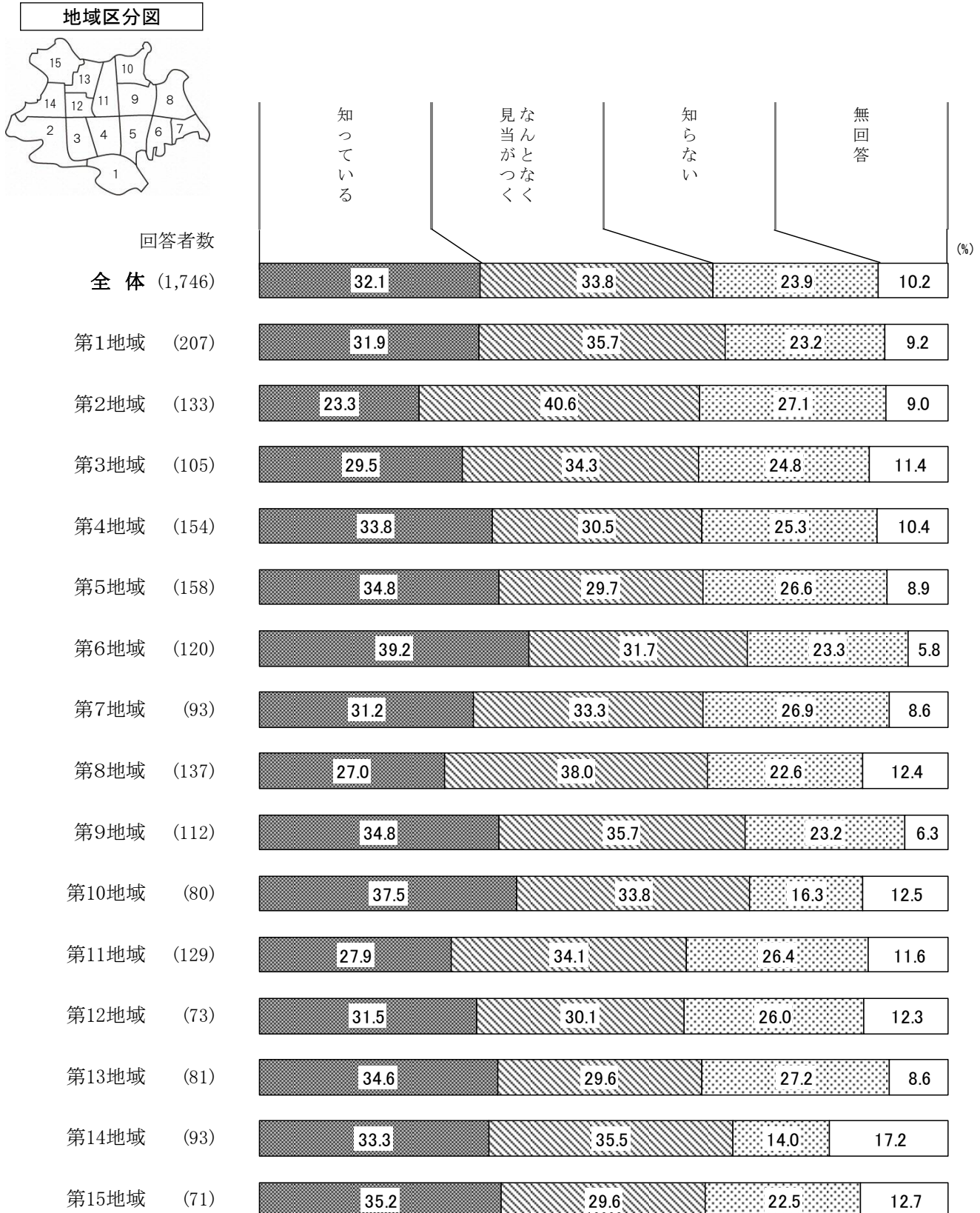
「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第6地域が3割台半ばで最も高く、第12地域が3割強で続くが、第3地域では2割と最も低くなっている。

図2-7-3 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第6地域で4割近くと最も高く、第10地域が4割弱で続くが、第2地域では2割前半で最も低くなっている。

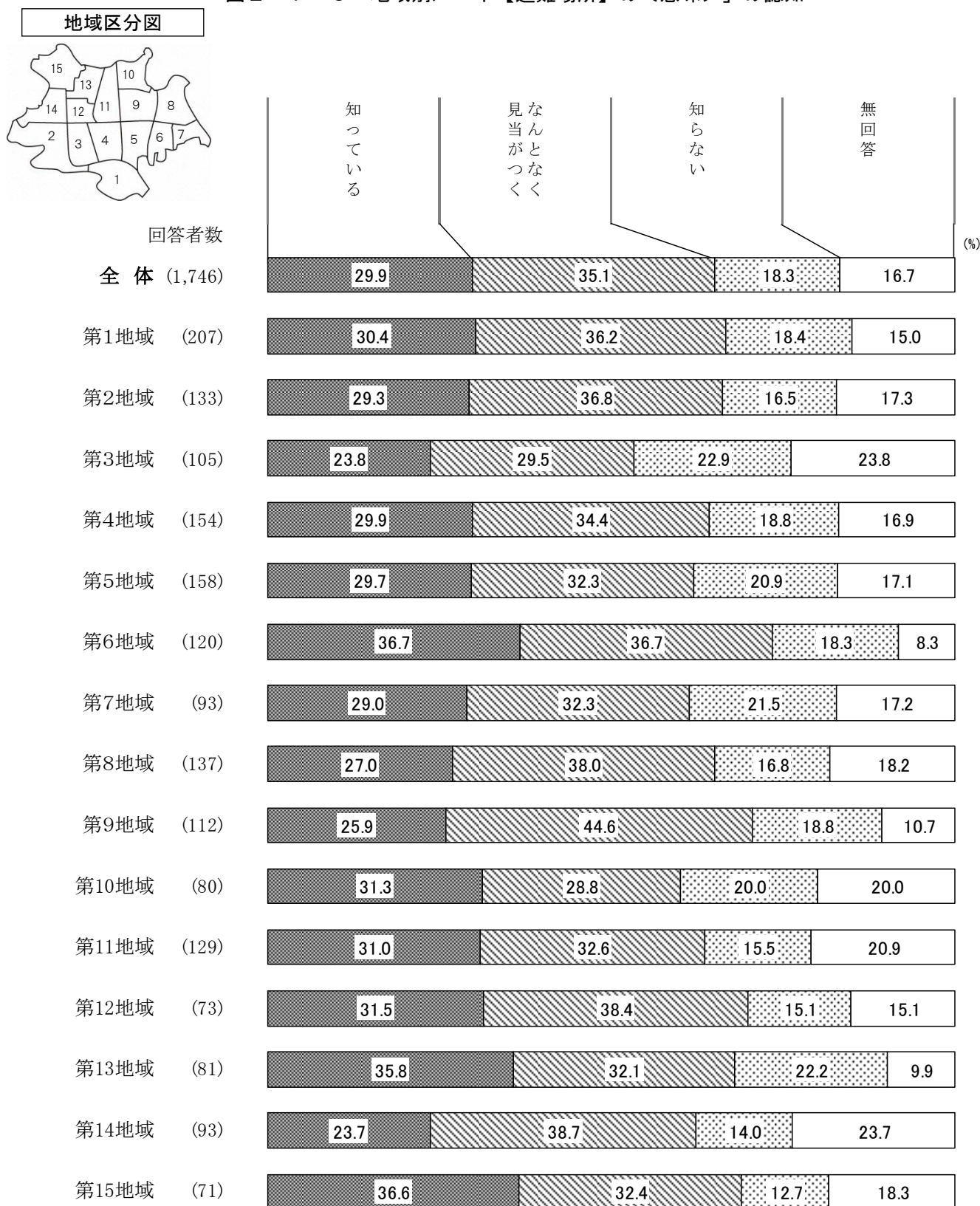
図2-7-4 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

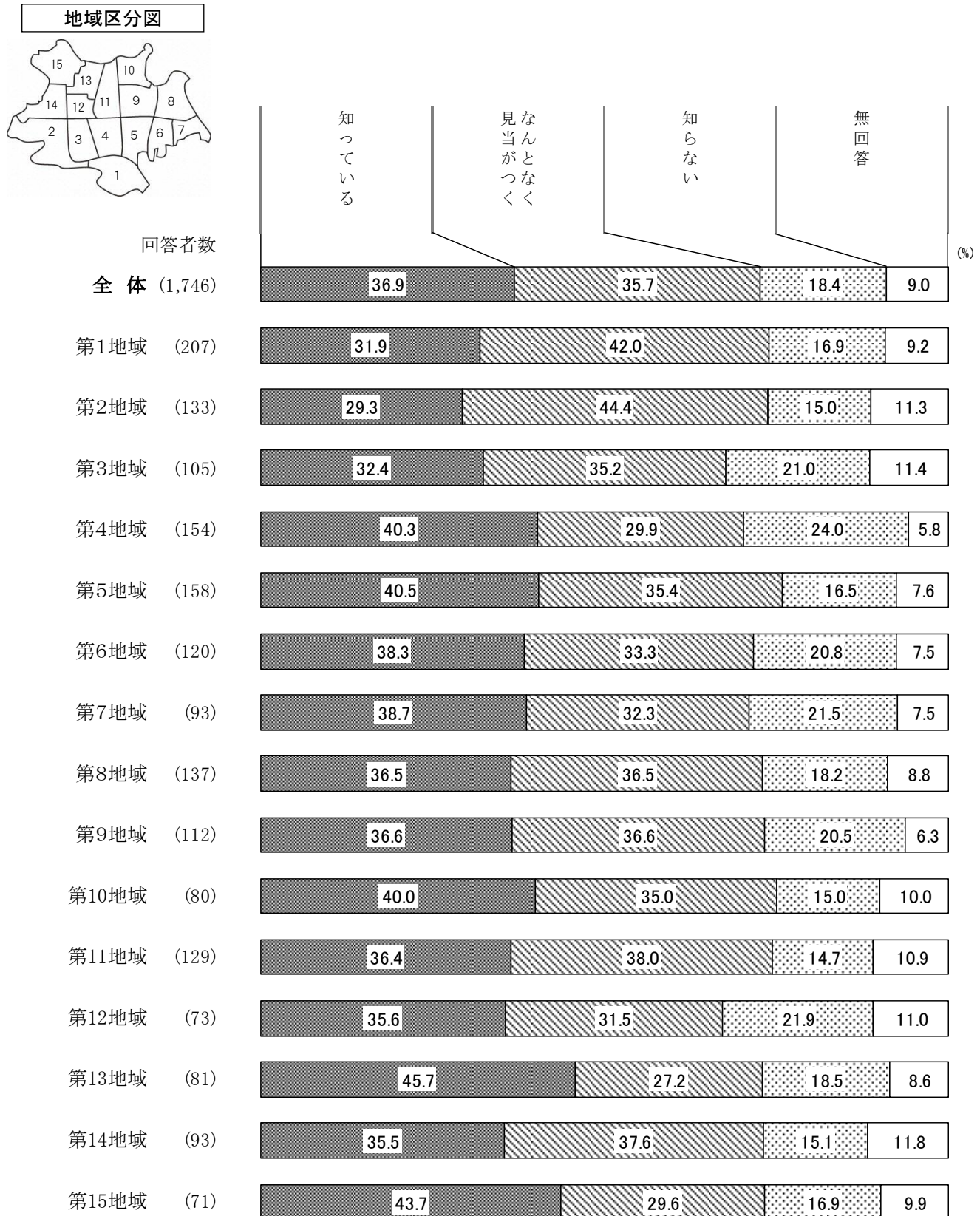
「イ【避難場所】の<意味>」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第6地域、第13地域、第15地域の3地域でそれぞれ3割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第3地域と第14地域では「知っている」が2割台前半で他の地域より低めとなっている。

図2-7-5 地域別／「イ【避難場所】の<意味>」の認知



「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第13地域と第15地域の2地域でそれぞれ4割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第2地域では3割に届かず最も低くなっている。

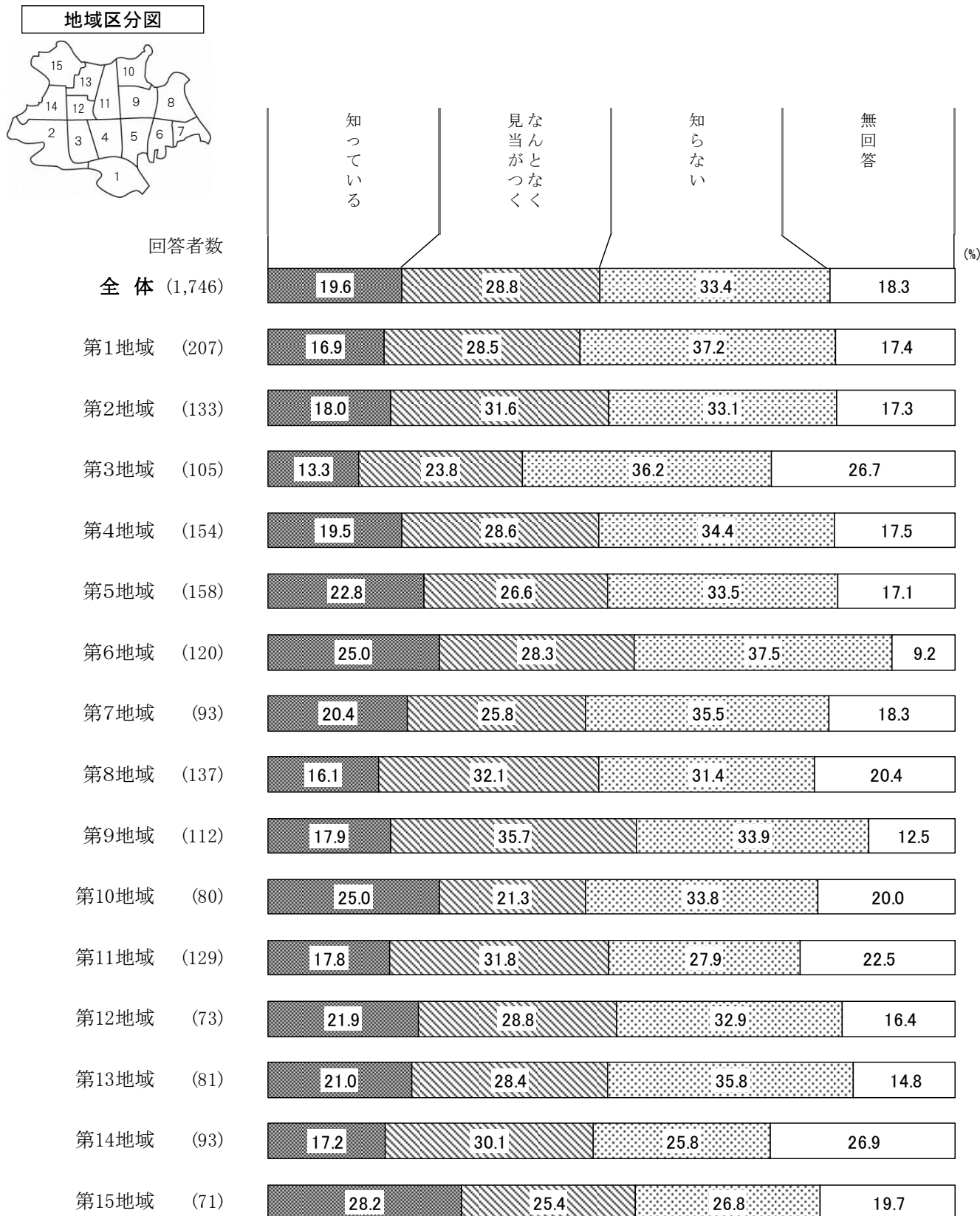
図2-7-6 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

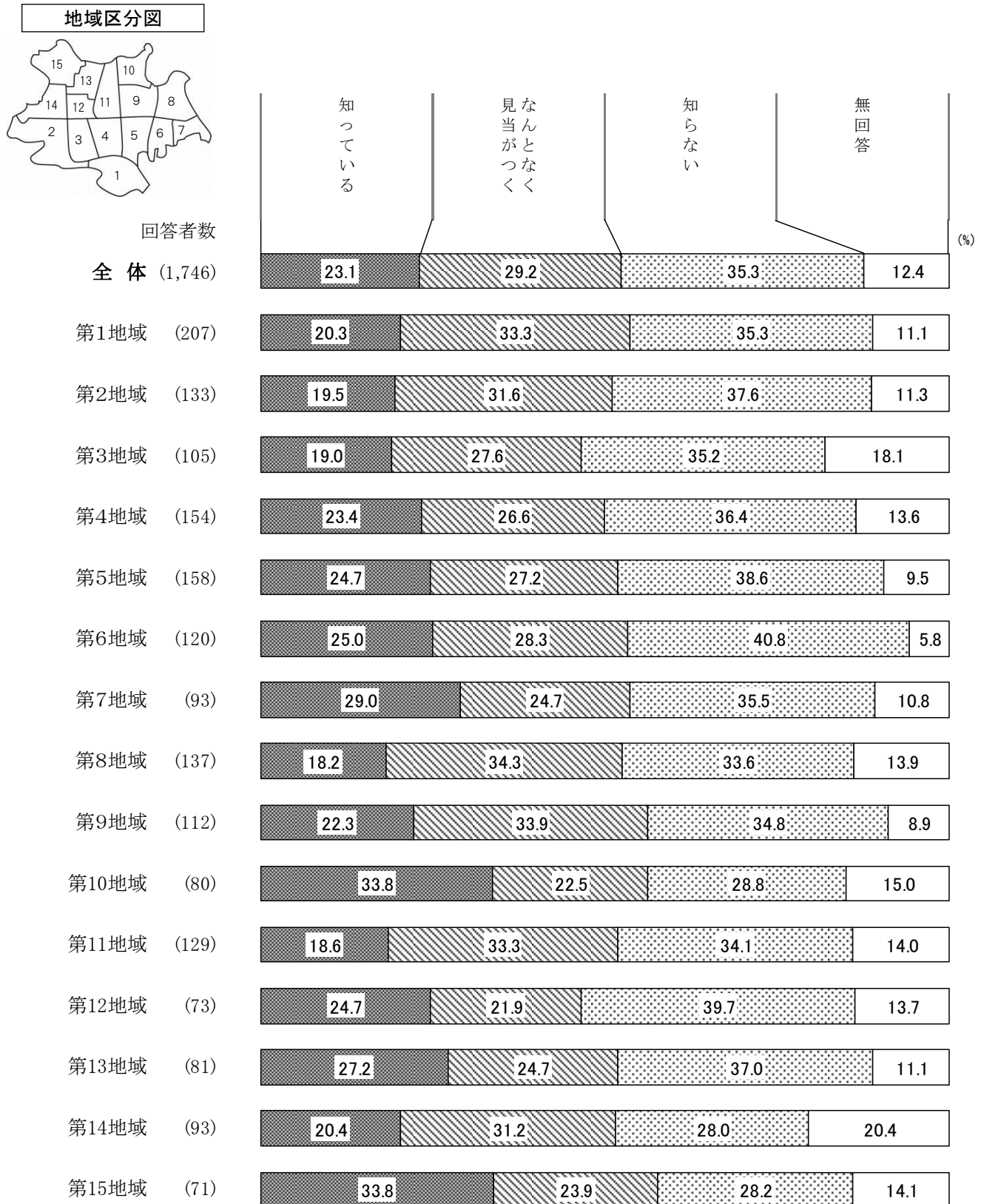
「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が3割弱で最も高く、第6地域と第10地域もそれぞれ2割台半ばで他の地域より高くなっている。一方、第3地域では「知っている」が1割台前半で最も低くなっている。

図2-7-7 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知



「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第10地域と第15地域でそれぞれ3割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第2地域、第3地域、第8地域、第11地域の4地域は「知っている」がそれぞれ2割に届かず相対的に低めとなっている。

図2-7-8 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



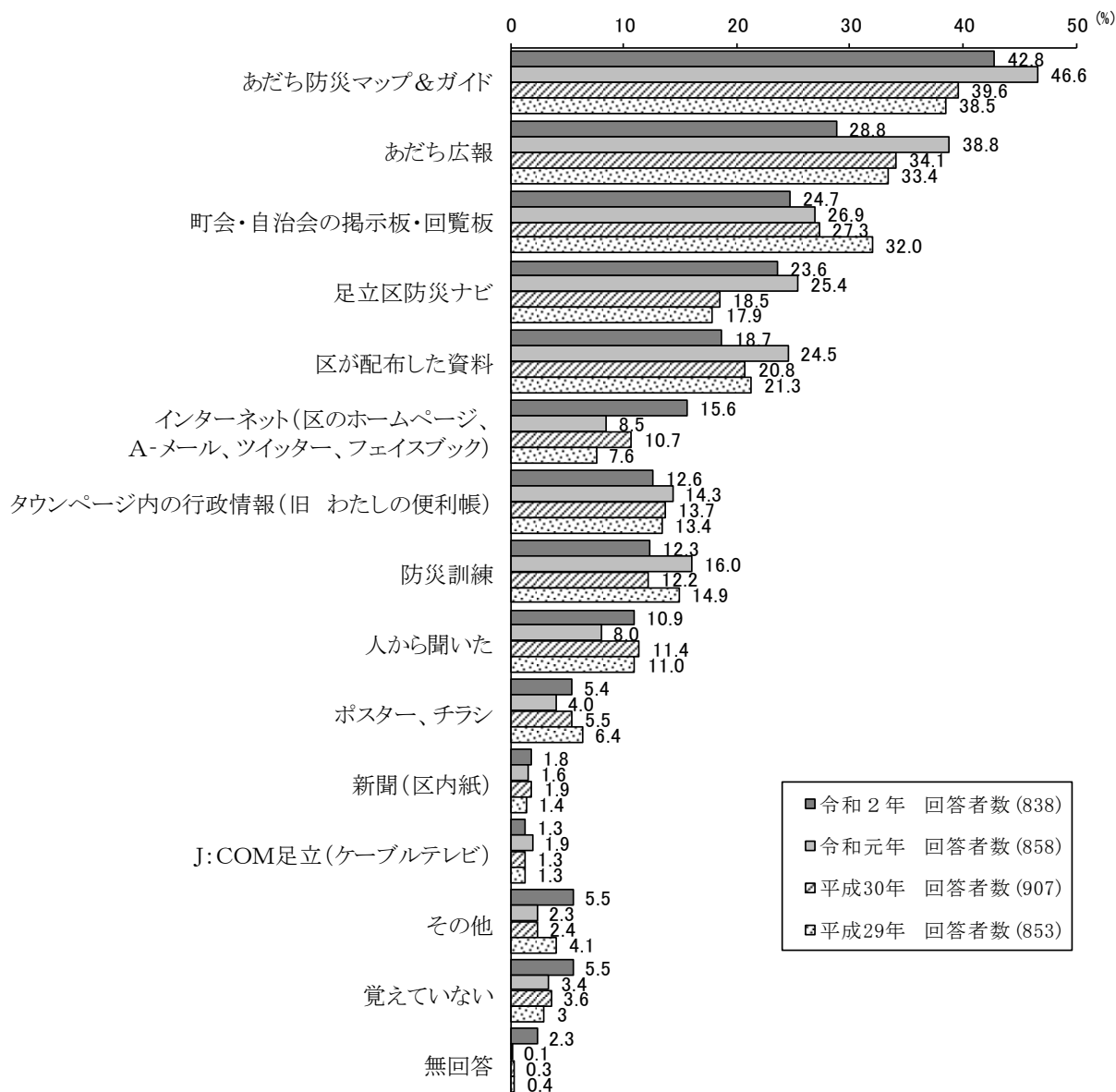
(8) 避難場所の認知経路

■ “防災マップ&ガイド”が4割強と最も高く“広報”が3割弱で次点

問8のいずれかで「1 知っている」とお答えの方に

問8-1 それぞれの避難場所をどのように知りましたか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-8-1 経年比較／避難場所の認知経路



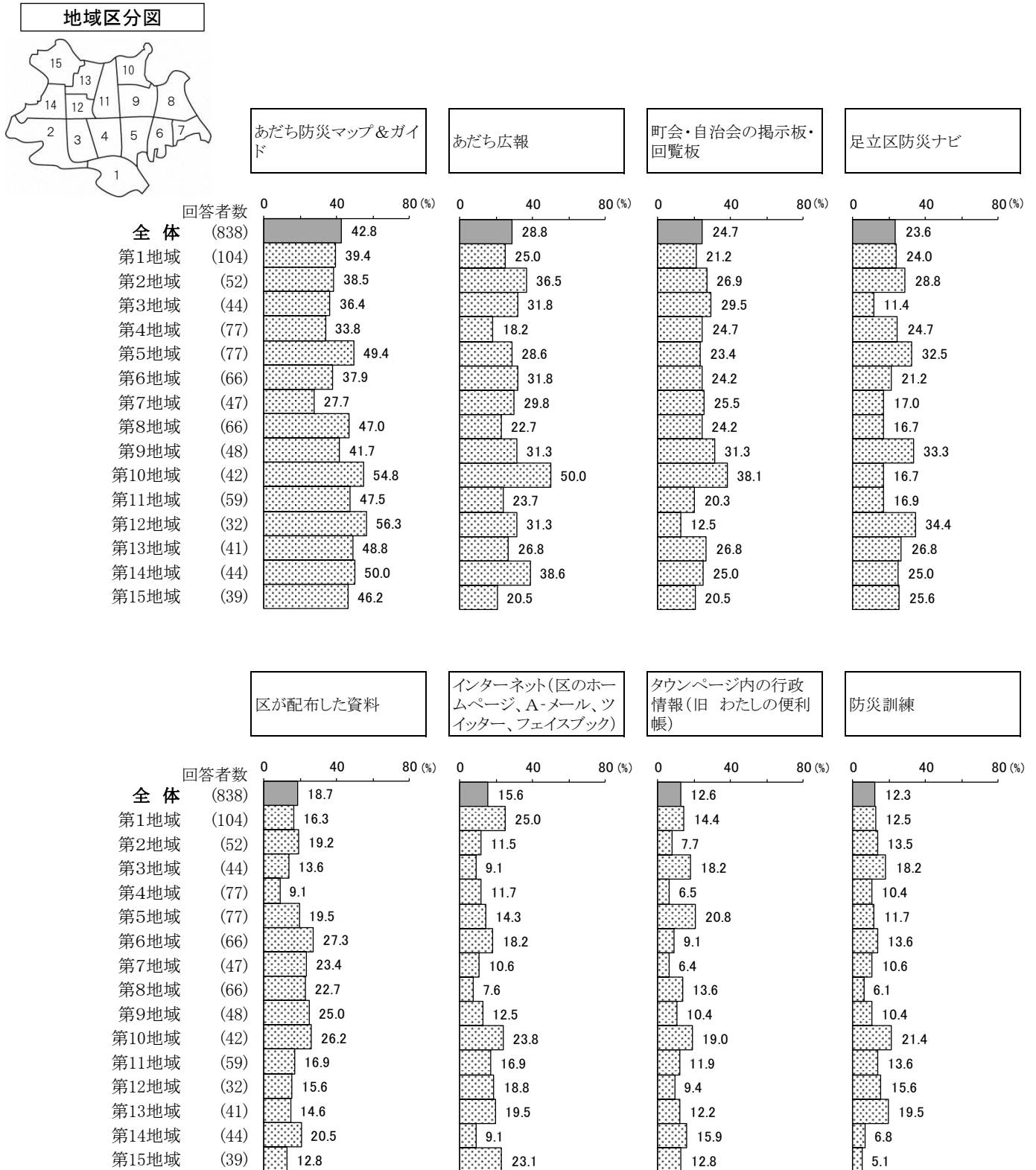
※ 前年度までであった「区公式アプリ『アダチさん』」は、令和2年度は割愛された。

問8の地域の3種の避難場所の場所か意味のいずれかを認知している人のその認知経路をみると、「あだち防災マップ&ガイド」が42.8%で最も高く、以下「あだち広報」(28.8%)、「町会・自治会掲示版・回覧板」(24.7%)、「足立区防災ナビ」(23.6%)の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位に変動はみられないが、次点の「あだち広報」は前回に比べて10.0ポイント減少している。(ただし、前回は地域の避難場所の認知経路の設問だったことに留意)

地域別でみると、「あだち防災マップ&ガイド」は第10地域と第12地域で5割台半ばと高く、第10地域は「あだち広報」(50.0%)や「町会・自治会掲示板・回覧板」(38.1%)でも高くなっている。なお、「インターネット」が高めなのは第1地域、第10地域、第15地域の3地域である。

図2-8-2 地域別/避難場所の認知経路/上位8項目

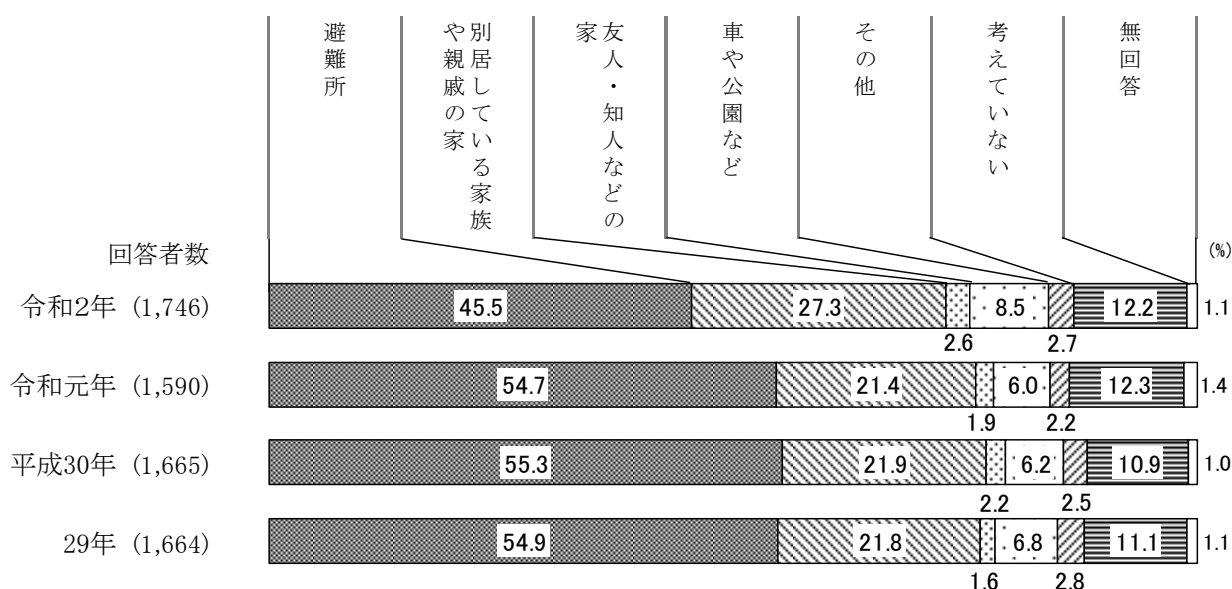


(9) 大規模災害時の避難生活場所

■「避難所」が4割台半ばで最多ながら、令和元年までの3年間に比べると約10ポイント減

問9 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

図2-9-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所

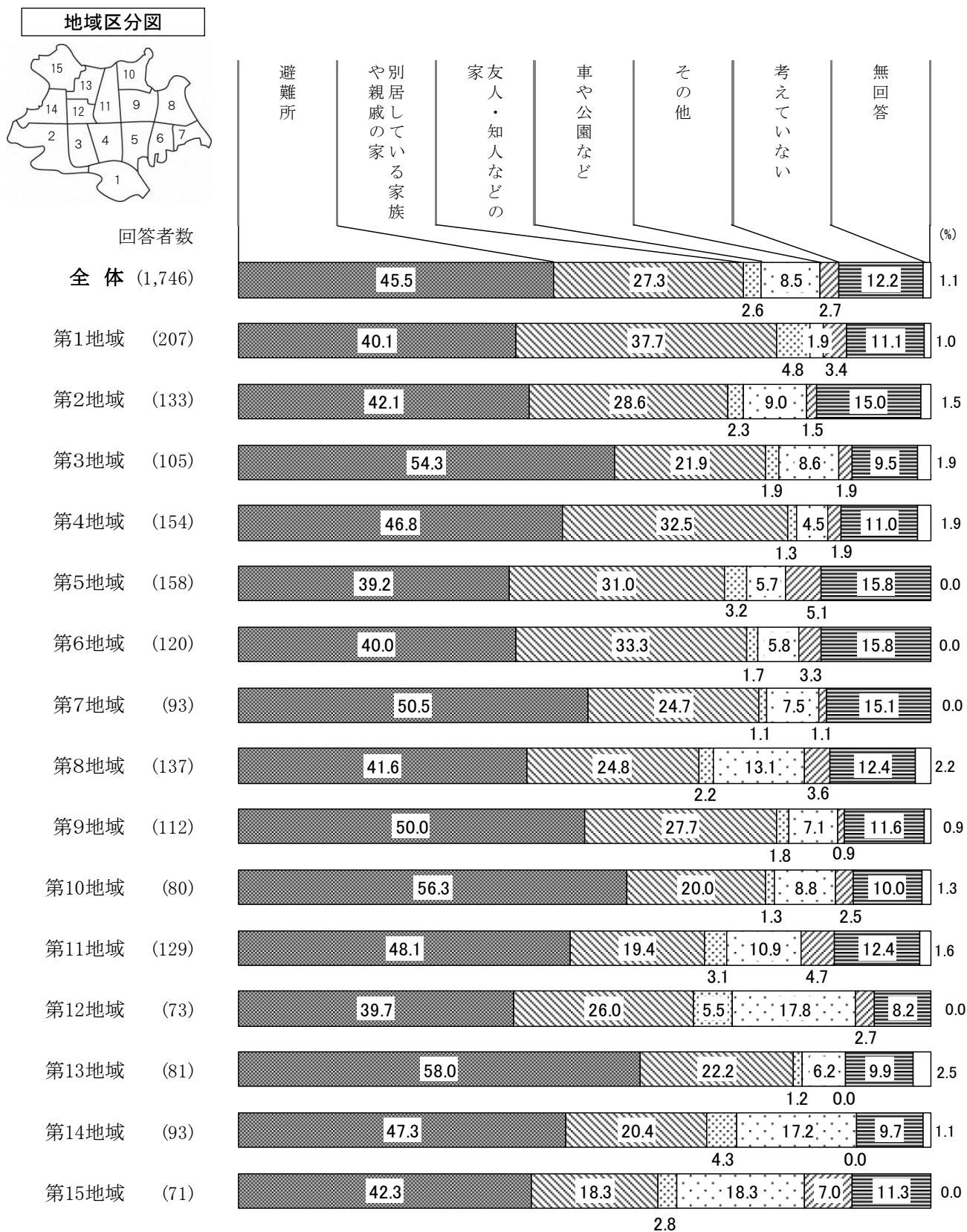


大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が45.5%で最も多く、次いで「別居している家族や親戚の家」が27.3%となっている。

経年でみると、今回トップの「避難所」は前回より9.2ポイント減少した一方で、「別居している家族や親戚の家」は5.9ポイント増加しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてか、今回の結果は令和元年までの3年間の回答分布とは異なる傾向をみせている。

地域別でみると、「避難所」は第13地域（58.0%）、第10地域（56.3%）、第3地域（54.3%）などで高いが、「別居している家族や親戚の家」は第1地域（37.7%）や第6地域（33.3%）、第4地域（32.5%）などで高くなっており、「車や公園など」は第15地域（18.3%）、第12地域（17.8%）、第14地域（17.2%）などで高くなっている。

図2-9-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “水・食料の備蓄充実” “ライフライン確保” が6割弱で並んで上位

問10 あなたが大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

図2-10-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

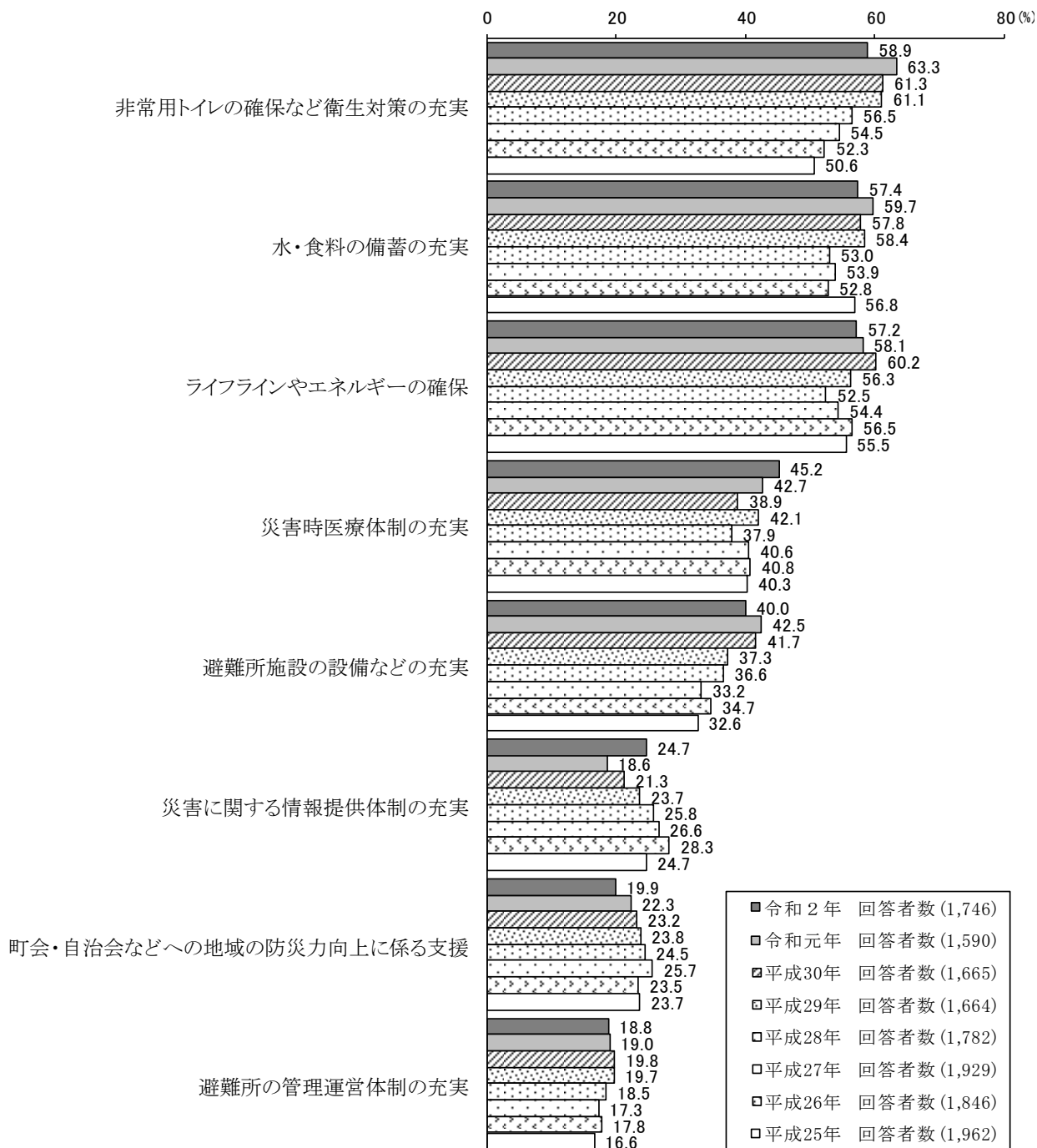


図2-10-1-② 経年比較/大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

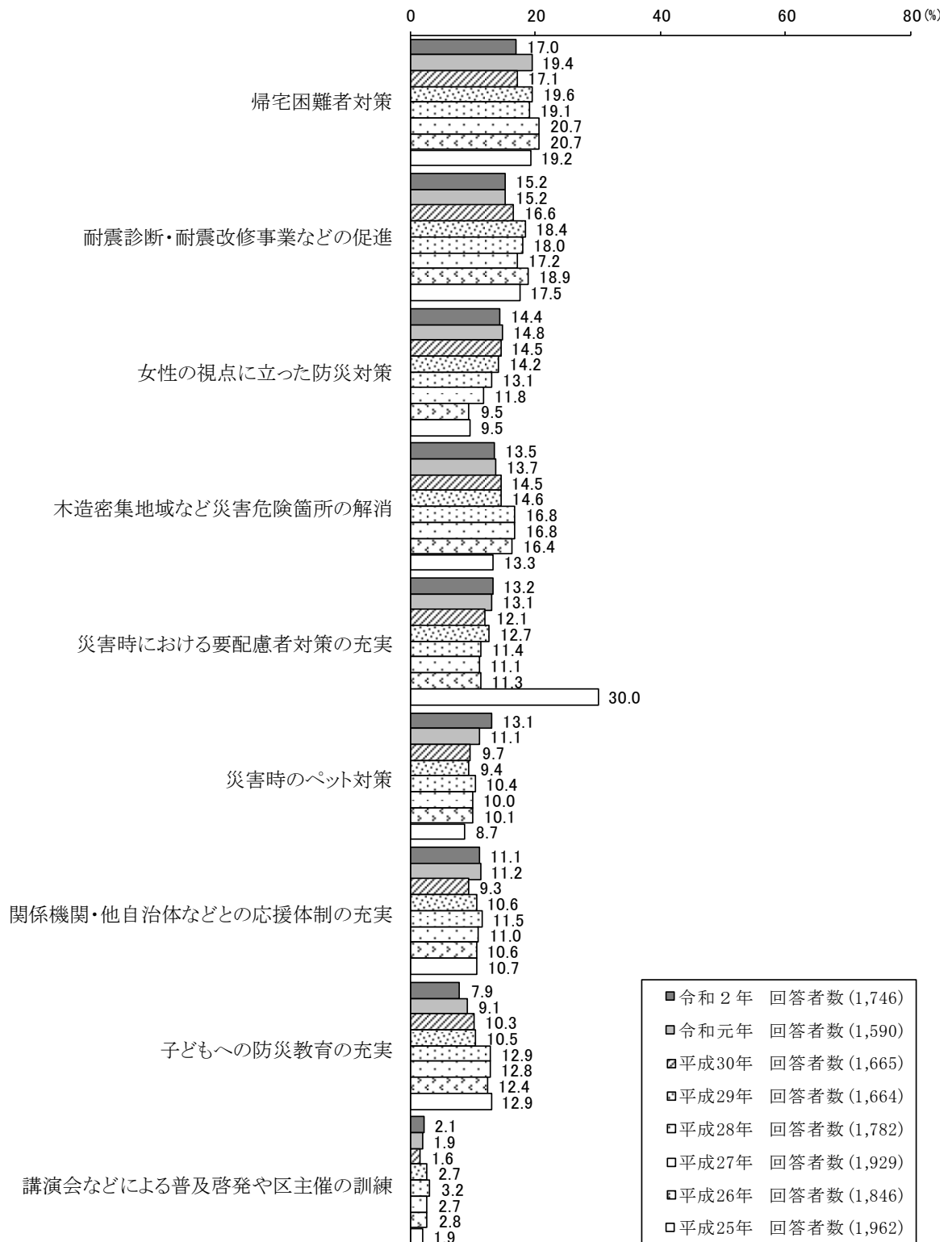
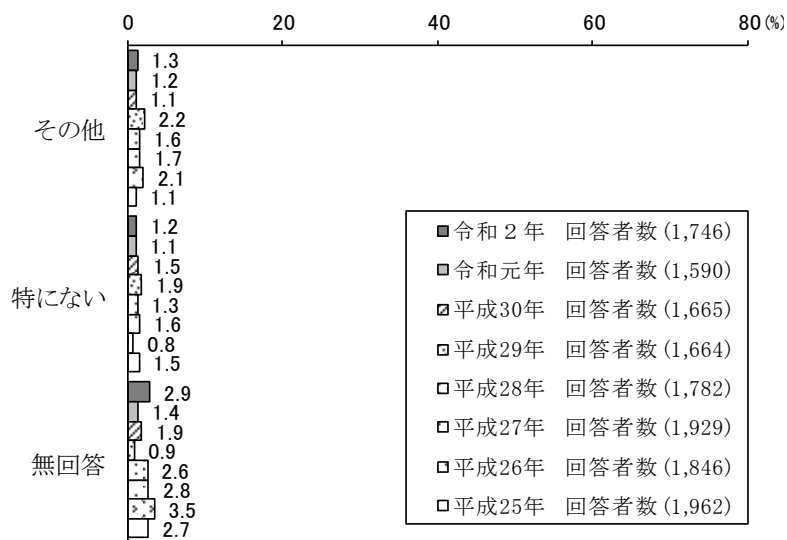


図2-10-1-③ 経年比較/大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※ 「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(58.9%)、「水・食料の備蓄の充実」(57.4%)、「ライフラインやエネルギーの確保」(57.2%)の3項目がそれぞれ6割弱で並んで上位となっている。

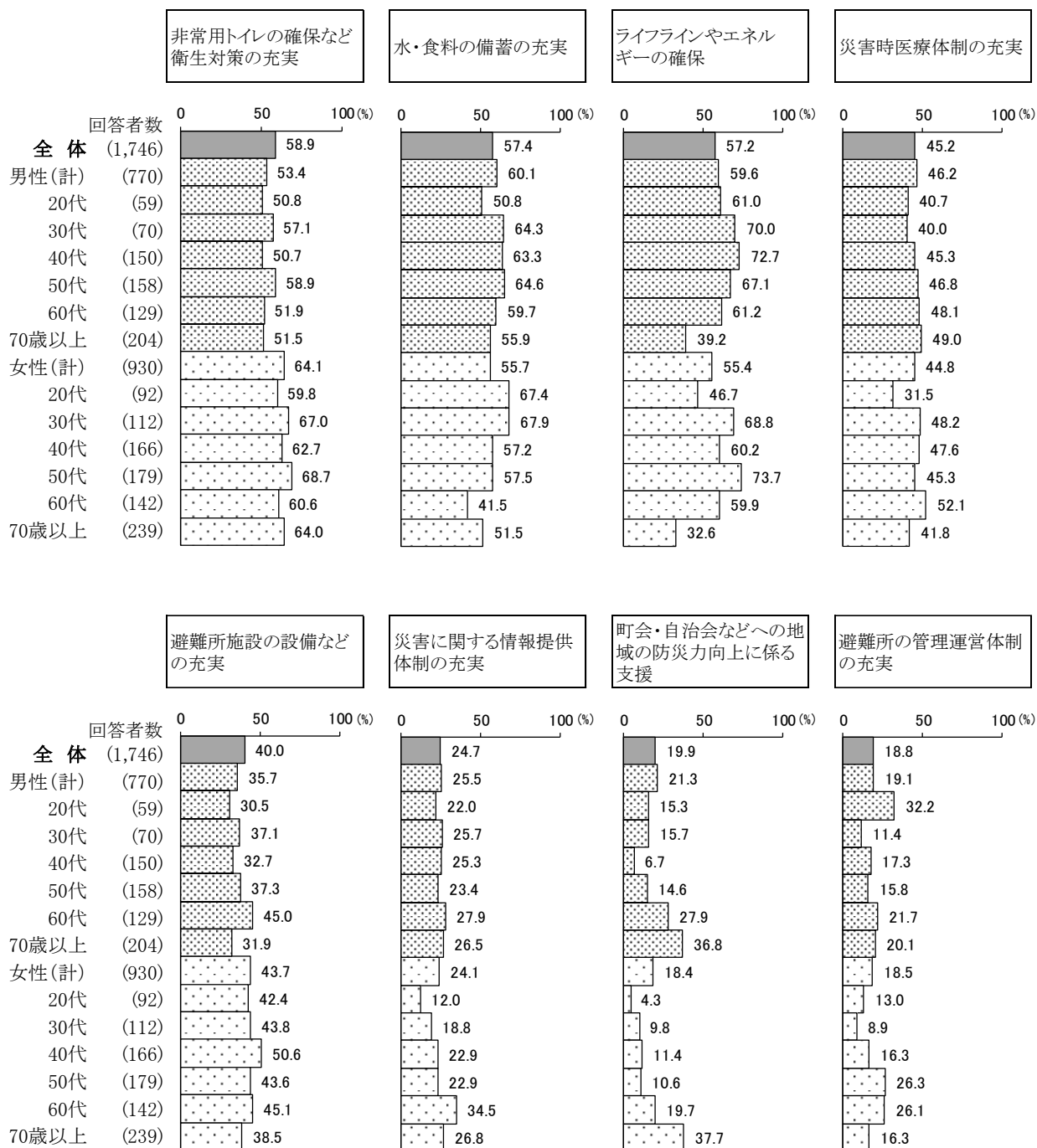
経年でみると、上位項目の順位に変化はみられないが、上位項目のほとんどが前年より比率を微減させている中で、今回4位の「災害時医療体制の充実」は前回より2.5ポイント増加し、今回6位の「災害に関する情報提供体制の充実」は前回より6.1ポイント増加している。

性別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」と「避難所施設の設備などの充実」の2項目は女性の方が男性より10ポイント前後上回って高くなっている。

性・年代別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」と「ライフラインやエネルギーの確保」は女性の50代が最も高く、「水・食料の備蓄の充実」は女性の20代と30代で高く、男性の30代～50代の3層でも高めとなっている。

図2-10-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

ライフステージ別で見ると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」と「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の上位3項目は、いずれも家族形成期が7割弱～7割強で最も高く、逆に高齢期で総じて低めとなっており、中でも「ライフラインやエネルギーの確保」でその格差が大きくなっている。

図2-10-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

